



公益財団法人 日本ハンドボール協会 編
平成31年1月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻587号

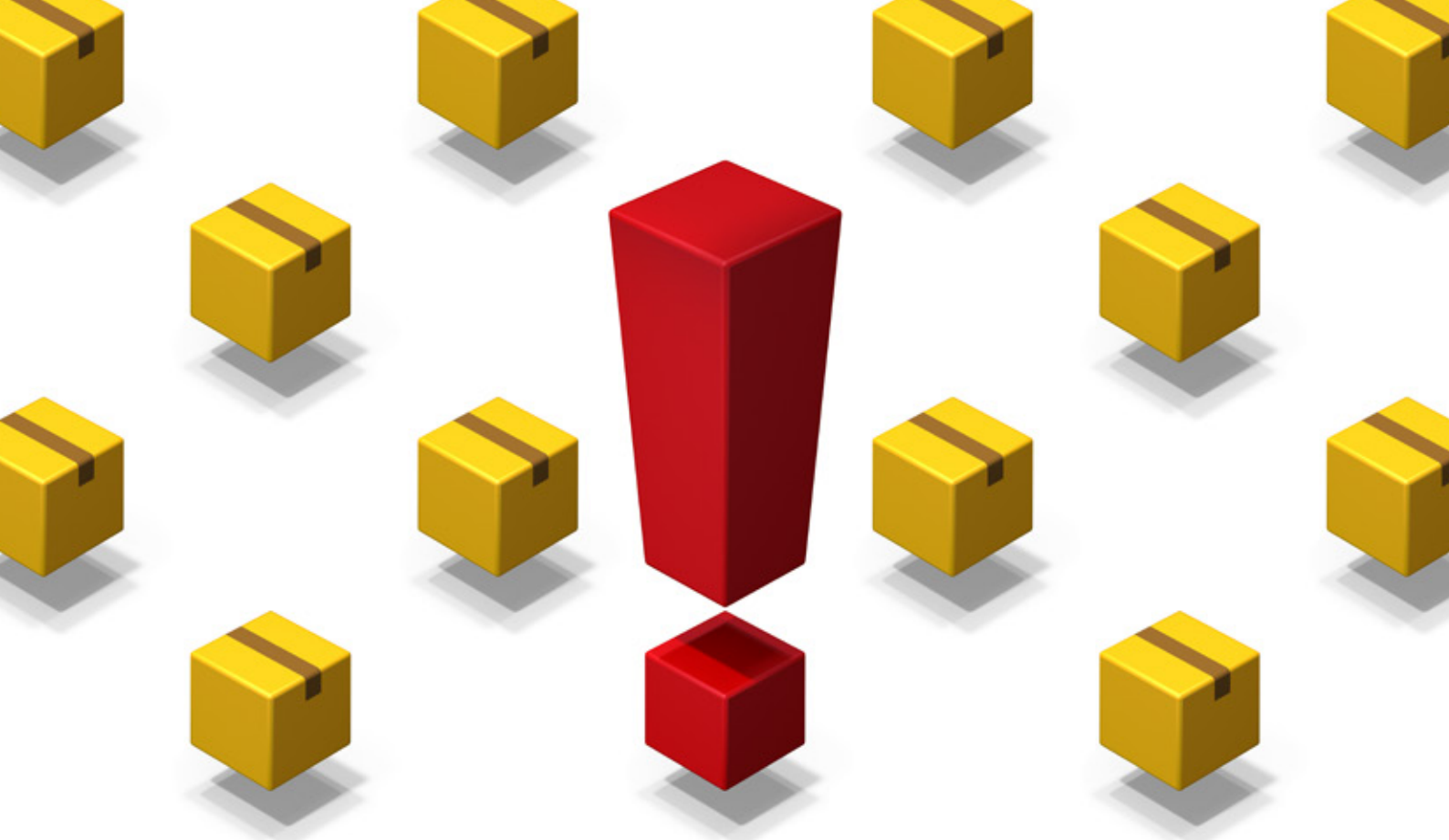
ハンドボール

1

JAN.2019
No.587



- 第17回女子アジア選手権
- 第2回全日本マスターズシニア大会
- 2018 Taiwan Gangdu Cup Beach Handball Tournament



世界が驚く、 物流をつくらう。

東京2020大会を、物流から支えています。



東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー



プレミアム・リゾートという選択 一戸建て住宅型有料老人ホーム



メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始!

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開! 待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは
女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL : 03-3525-8986 / FAX : 03-5295-8188 <http://yurika-co.jp/>





あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

Eat Well, Live Well.

Aji
AJINOMOTO.

Behind Your "Best"



車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手



バドミントン
松友 美佐紀 選手



競泳
瀬戸 大也 選手



ハンドボール
原 希美 選手
ハンドボール
永田 しおり 選手
ハンドボール
横崎 彩 選手



バドミントン
高橋 礼華 選手



5人制サッカー
加藤 健人 選手
5人制サッカー
黒田 智成 選手



柔道
喜友名 諒 選手



パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手
パラ水泳
木村 敬一 選手
パラ水泳
山田 拓朗 選手

©The Asahi Shimbun via Getty Images
©Atsushi Tomura/Getty Images for Tokyo 2020
©Junya Nishigawa - PARAPHOTO/Getty Images
©Ian MacNicol/Getty Images ©JBFA ©X-1

味の素(株)は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、
東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。

＼ がんばる人のチカラになるごはん！

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。

味の素(株)は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。



東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)



【表紙の写真】
第17回女子アジア選手権

CONTENTS

07 年頭にあたり

—(公財)日本ハンドボール協会会長・湧永寛仁

第17回女子アジア選手権

08 最終順位

09 メンバー表

10 団長・田口 隆、監督・Ulrik Kirkely

12 主将・原 希美、コーチ・櫛田亮介

13 GK コーチ・アントニ・パレツキ

14 ドクター・井本光太郎

15 トレーナー・高野内俊也、岩谷美菜子

16 アナリスト・嘉数陽介

18 戦評

第23回全日本マスターズハンドボールシニア大会

23 試合結果

24 大会を終えて—マスターズ専門委員会委員長・小山哲央

2018 Taiwan Gangdu Cup Beach Handball Tournament

27 試合結果/メンバー表

28 監督・沖本哲郎

30 主将・星野美佳

31 AHF Referees' Course (Suzhou-CHN)

—古川英樹・村田哲郎

35 現在の日本ハンドボールでのスポーツ・アナリティックについて

—市村志郎

40 【熊本通信】2019女子ハンドボール世界選手権大会のチケット販売中です！

がんばれハンドボール 20万人会「サポート会員」11月入会・継続会員

【埼玉】恩田 勉、恩田道代【東京】佐藤俊男、佐藤映子【神奈川】福井俊彦【愛知】山田美佐子、濱嶋美香、稲本 等、加藤恵美子、新井こずえ、城山秀美、西みどり【岐阜】桐谷勝規【滋賀】谷口俊夫【大阪】金谷泰臣、西野 誠【広島】塩屋正子

次号2月号(No.588)は2月1日発行予定です。

あなたの元気を未来につなぐ
Wakunaga

**元気、やる気、
笑顔、湧く。**

キョーレオピン
KYOLEOPIN
LIQUID

滋養強壯
虚弱体質

レオピン
5

「販売名」
キョーレオピンw

第3類医薬品

「販売名」
レオピンファイブw

お取扱店のお問い合わせ **0120-39-0971**
(通話料無料) 受付時間 9:00~12:00・13:00~17:00(土日祝日を除く)

湧永製薬株式会社
http://www.wakunaga.co.jp/

年頭にあたり



公益財団法人 日本ハンドボール協会

会長 湧永 寛仁

常日頃より当協会の事業運営に対して深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また、全国のハンドボール愛好者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年はいよいよ熊本で女子世界選手権が開催されます。2020 東京オリンピックまではあと1年半となりました。女子日本代表は、昨年6月に高崎市でポーランド代表、8月には熊本でデンマークのクラブチームとの国際試合を経て、アジア競技大会では銅メダルを獲得しました。また、先月のアジア選手権では中国に勝利し、優勝は逃しましたが銀メダルを獲得いたしました。男子日本代表は、昨年6月に徳島市、東京でドイツ代表、大田区でブラジル代表との国際試合を行い、強化状況の確認を行い、細かな軌道修正を行いつつさらなるステップアップを図っています。今月10日からドイツ、デンマークで開催される世界選手権に出場します。また、男女日本代表ともに、今年も引き続きヨーロッパ代表チーム等を招聘し、JAPAN CUP の開催を計画しております。

次世代に目を向けますと、昨年7月にクロアチアで行われた世界学生選手権で、女子が優勝、男子が3位という過去最高の成績を収めました。また、U-22 は香港での東アジア選手権で男女とも準優勝、8月には男子U-21、9月にはU-19 がアジア選手権でともに準優勝でした。女子は7月にU-20、8月にU-18 がともに世界選手権で14位となりましたが、欧州勢とも接戦が多く、着実に差が縮まっていることが伺えます。国際大会でさらなる経験を積み、将来の日本代表チームの柱となってくれるものと大いに期待しています。

毎年年初には、味の素ナショナルトレーニングセンターでNTS センタートレーニングを行っております。昨年からターゲットエイジの拡大をはかり、U-13 も対象として開催しております。全国から選ばれた子供たちが将来の日本代表を目指してトレーニングに励んでいます。世界の舞台での活躍を夢見る子供たちに希望を与え、実現させることが我々の使命と考え、2020 東京オリンピック、さらにその先につながる育成、強化活動も進めて参ります。

今年の熊本女子世界選手権、来年の東京オリンピックでの日本代表選手の活躍と、両大会でのメダル獲得という目標に向けて、さらなる覚悟をもって全力で取り組んで参ります。

全国のハンドボール愛好者の皆様、本年も引き続きのご支援、ご声援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第17回女子アジア選手権

17th Asian Women's Handball Championship 2018 - Kumamoto



開催期間

2018年11月30日～12月9日

開催地

熊本県・熊本市、八代市、山鹿市

会場

八代市総合体育館、山鹿市総合体育館、熊本県立総合体育館

出場チーム

中国、日本、韓国、イラン、オーストラリア、ニュージーランド、カザフスタン、インド、香港、シンガポール

最終順位

優勝：韓国 (KOR)

2位：日本 (JPN)

3位：中国 (CHN)

4位：カザフスタン (KAZ)

5位：オーストラリア (AUS)

6位：イラン (IRI)

7位：香港 (HKG)

8位：インド (IND)

9位：シンガポール (SIN)

10位：ニュージーランド (NZL)

※来年、同じく熊本にて開催される女子世界選手権の出場国として、すでに開催地として出場を決めている日本のほか、アジアから韓国、中国、カザフスタン、またオセアニア枠からオーストラリアの計5チームが決定いたしました。

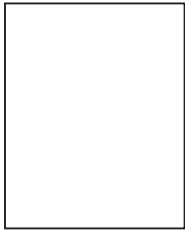


女子日本代表 『おりひめ JAPAN』



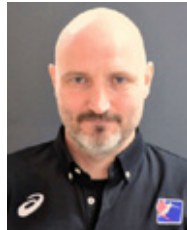
強化本部長

田口 隆
(公財)日本ハンドボール協会



強化コーディネーター

栗山 雅倫
(公財)日本ハンドボール協会・東海大学



監督

Ulrik Kirkely
(公財)日本ハンドボール協会



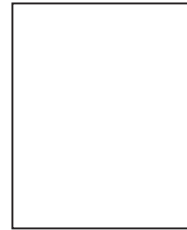
コーチ

榑田 亮介
(公財)日本ハンドボール協会・三重バイオレットアイリス



GKコーチ

Antoni Parecki
(公財)日本ハンドボール協会



ドクター

井本 光次郎
(公財)日本ハンドボール協会・熊本赤十字病院



トレーナー

高野内 俊也
(公財)日本ハンドボール協会・一般財団法人日本予防医学協会



トレーナー

岩谷 美菜子
(公財)日本ハンドボール協会



分析

嘉数 陽介
(公財)日本ハンドボール協会



通訳

藤田 愛
(公財)日本ハンドボール協会



1 GK

飛田 季実子
ソニーセミコンダクタ
マニュファクチャリング
大阪福島女子高校出



2 PV

永田 美香
北國銀行
四天王寺高校出



3 PV

角南 果帆
ソニーセミコンダクタ
マニュファクチャリング
大阪体育大学出



4 RB

角南 唯
Nykøbing Falster(DEN)
大阪体育大学出



5 LB

塩田 沙代
北國銀行
高松商業高校出



6 CB

石井 優花
オムロン
東京女子体育大学出



7 RW

藤田 明日香
Borussia Dortmund(GER)
四天王寺高校出



9 CB

横嶋 彩
北國銀行
環太平洋大学出



11 PV

堀川 真奈
広島メイプルレッズ
大阪教育大学出



12 GK

板野 陽
広島メイプルレッズ
大阪教育大学出



13 LW

勝連 智恵
オムロン
宣真高校出



15 RB

多田 仁美
三重バイオレットアイリス
日本体育大学出



18 LW

田邊 夕貴
北國銀行
大阪体育大学出



20 RW

秋山 なつみ
北國銀行
大阪体育大学出



21 RW

池原 綾香
Nykøbing Falster(DEN)
日本体育大学出



24 LB

原 希美
三重バイオレットアイリス
日本体育大学出



25 CB

大山 真奈
北國銀行
大阪体育大学出



28 PV

永田 しおり
オムロン
福岡女子商業高校出



30 GK

亀谷 さくら
Nykøbing Falster(DEN)
NTG High School出



31 LB

渡部 真綾
東海大学
小松市立高校出

団長 田口 隆

第17回女子アジア選手権を終えて

はじめに、第17回女子アジア選手権開催にあたり、ご尽力いただきました熊本県・熊本市・山鹿市・八代市の皆様、加えて熊本県ハンドボール協会の皆様に感謝申し上げます。また、熊本県内はもとより九州をはじめ全国から多くの方々にも来場いただき、ご声援いただきましたこと心より御礼申し上げます。

この大会は2019年熊本女子世界選手権のアジア予選を兼ねた大会でありました。私たち日本代表「おりひめジャパン」は開催国としてすでに出場権を獲得していましたが、アジアチャンピオンとして世界選手権へ出場することを目標に大会へ臨みました。結果は今夏のアジア競技大会（ジャカルタ）で敗れた中国には準決勝にて雪辱を果たしたものの、決勝では女王韓国に対して、前半の健闘はあったものの悔しい敗戦となり、アジアチャンピオンとして世界選手権への出場は叶わないといった結果になりました。しかしながら、冷静に問題・課題を整理して次のステップへ進むべく取り組んでいきたいと考えています。

さて、私からは大会の様子を報告させていただきたいと思います。大会は11月29日のテクニカルミーティングを皮切りにスタートしました。（事前にはアジアハンドボール連盟による予選リーグ会場の最終チェックも行われました。）ウェルカムスピーチに始まり、大会システムの説明、世界選手権の出場権獲得数についての確認、選手登録について、広告に関する規則について、ドーピング検査について、競技規則について、試合前後のセレモニーなどについて、そして予選リーグの試合ごとのユニフォーム確認と登録リストとパスポートの照会を行い終了しました。段取り良い進行と各国の理解のもとに問題なく良いスタートが切れました。AHFのテクニカルデレゲートとレフェリーのミーティングは毎日のように行われました。

「おりひめジャパン」は予選リーグで八代会場と山鹿会場でそれぞれ2試合ずつ行いました。4試合のうち3試合は平日の夜の開催でありましたが、会場は溢れんばかりの来場者で埋め尽くされました。大声援が「おりひめジャパン」の背中を押していただいたことは言うまでもありません。強化ポイントの一つとして、「地元の大声援の中、プレッシャーを感じてどのようにプレーしていくか。」をテストする上ではまたとない状況を作っていただきました。このようなプレッシャーのかかった試合経験こそが、強い選手・チームを作り上げていくと思っています。準決勝、決勝は会場を移して熊本県立総合体育館での開催となりました。予選リーグ会場と比較して広い会場となることから来場者が増えることが期待されました。結果、決勝は3,000名を超える方に来場いただきました。

大会を通して、応援もいろいろな工夫をしていただき、プレーする選手だけでなく私たち協会役員も大変勇気づけられました。また、「おりひめジャパン」が登場しない試合においても多数の方々に来場いただきました。来年の世界選手権に向けて、地元の方々にハンドボールに興味を持っていただくということができたのではないかと思います。これは、ひとえに女子アジア選手権前の今年8月の「おりひめ JAPAN トライアルゲームズ」開催や、地道なPR活動など、女子世界選手権までの計画的なプロモーション活動が結果として現れてきたことを実感しました。

協会としては、『する人・観る人・支える人（教える人）』の拡充を課題と捉えています。来年の女子世界選手権に向けて「おりひめジャパン」の強化を推進することは当然のことながら、これらの課題克服に向けても積極的に取り組んでいかななくてはならないことを改めて強く感じました。熊本の方々のみならず、全国の方々のご協力・ご支援のもとにこれらのことが取り組まれ、皆さんと共に達成感が得られることを望んでいます。

監督 Ulrik Kirkely

日本のハンドボール仲間の皆様へ

2018年に入って、日本の熊本での女子アジア選手権開催が現実となってから、この大会を戦うことを大変楽しみにしていました。日本国内でこのような大きな大会に参加できることは特別なことです。しかも、2019年には女子世界選手権が同じく、美しい熊本で開催されることもあり、その準備としても貴重な機会となりました。

そのすぐ後、2020年夏には東京オリンピックが控えており、私たちはたった20ヶ月のうちに自国開催の国際大会に3つも参加できるという、世界的に見ても稀な状況に恵まれています。そしてそのすべてを、心から楽しみにして強化を続けています。

今年8月にインドネシア・ジャカルタでアジア競技大会があったばかりでしたが、今大会でも、アジアの国々を相手に熱い試合をすることを楽しみに準備してきました。アジア競技大会では決勝の舞台で戦うということが叶いませんでしたが、今大会では日本が決勝にふさわしいチームだということを見せたい気持ちでいっぱいでした。

過去25年ほどを振り返ると、韓国は実力で日本より一段上にいると言えます。しかし差は縮まっているということを見せたいところです。中国とは、対戦はいつも白熱の接戦になります。さらにカザフスタンも侮れません。有望な若い選手が多いチームで、経験を増すごとにどんどん実力を上げています。8月のアジア競技大会と比べ、各国のレベルが上がっていることは確実と考え、大会に臨みました。

また今大会は、アジア選手権にオセアニア勢が参加するという嬉しい変化もありました。オーストラリアとニュージーランドとの対戦にはワクワクしました。特にオーストラリアは過去にも、代表チームにヨーロッパ出身の良い選手がいたこともあります。結果として両国ともアジアのトップレベルとはまだ差がありましたが、オーストラリアが来年の世界選手権の出場権を獲得したことはとても喜ばしいことでした。

開催国チームという特別な立場で熊本でのアジア選手権に臨むことは、日本チーム一同、最高の気分でした。熊本のホテルへ到着した瞬間から、本当に素晴らしい歓迎を受け、ホテルでの環境も良く、熊本滞在中には練習や試合準備のためのベストな環境を各所で提供いただきました。メディアにも連日大きな関心を寄せていただき、真摯な取材を行っていただきました。お陰様で、試合へ出かけるときのチームのバスは毎回とても良いムードで、戦いの準備万端といった雰囲気満ちていたのが印象的でした。

今大会は、八代市・山鹿市・熊本市の3都市に試合会場があり、開幕は八代で迎えました。たくさんの観客の方々から温かい歓迎を受けました。ニュージーランド戦とオーストラリア戦は、今大会のスタートとしては完璧でした。順当に2連勝し、大会序盤から特にディフェンスの堅さを見せることができました。

次の2試合、イラン戦とカザフスタン戦は山鹿でありました。イランとの試合は最初の2試合と同様、実力差のある試合でした。イランに勝った時点で、準決勝進出が決まりました。次の相手カザフスタンは、8月のアジア競技大会で中国に勝ったチームです。ハイレベルな相手に対して、日本もレベルを上げて試合ができると分かっていました。日本はよく集中してプレーし走り続け、狙い通り、相手を疲れ果てさせ最後の15分間に体力差で勝つという戦いができました。

さて、いよいよ準決勝は熊本市で、中国との対戦です。予想通り試合は接戦となり、最後に日本のほうがわずかに精度高く賢くプレーをすることができた結果、23-21での勝利を収めました。ここでも、ディフェンスが勝利の鍵でした。逆に、オフェンスでは明らかな得点チャンスで、この日絶好調の中国のゴールキーパーに阻まれ続けました。準決勝の勝利がチーム一同本当に嬉しかったことは言うまでもありません。ついに決勝で韓国と対戦することができるのです。本当にいい試合をしよう、勝てるハンドボールをしよう、という気持ちで一つになりました。

決勝戦の日。熊本県立総合体育館に到着すると、会場いっぱいの観客の皆さんからおりひめジャパンを応援する気持ちが強く伝わってきました。本当に最高の雰囲気でした！！

私たちにわかっていたことは、2018年12月9日の決勝で韓国に勝つためには、日本は自己最高レベルのプレーをしなくてはいけないということです。今大会ここまでのパフォーマンスを超える必要があります。それでも、まだレベルを上げられる、とチーム一同、感じていました。試合の立ち上がりは非常に良く、前半は全体的にとっても良い内容でした。しかし、2017年3月の韓国・水原での前回大会と同様、後半に日本が失速します。特に速攻とオフェンスの場面では技術力で苦しむことが重なり、シュートもうまくいきません。結果として、韓国に特に速攻での楽な得点を許してしまうこととなりました。結果的には25-30で負け、もちろん大変悔しい思いをしました。

しかし今こそ前を向くことが大切です。2018年の間に、私たちはチームとして自分たちを本当に大きく成長させることができました。2017年12月のドイツでの世界選手権では一定の成果が出ましたが、そこからチームが今年、さらに成長するためには、フィジカル、技術、メンタルのすべての面で確実なレベルアップが必要でした。嬉しいことに、すべての要素で正しい方向に進んでいると言えます。2018年には、2016年より2017年より、良いハンドボールができています。特に、2017年12月以来の13カ月でたくさんの貴重な試合経験を積み、その中で成長することができました。この先も2019年、2020年と努力を続ける決意を新たにしています。

私たちは、2019年の女子世界選手権熊本大会、2020年の東京オリンピックを本当に楽しみにしています。いつも真剣に一途に応援してくださる日本のファンの皆さん。満員の会場で皆さんの前で試合をする日々のため、私たちは前進を続けていきます。

関係者の皆様、ファンの皆様、ご支援、ご協力いただき、本当にありがとうございました！！これからもおりひめジャパンをよろしく願いたします。

主将 原 希美

第17回女子アジア選手権を振り返って

まずはじめに、第17回女子アジア選手権出場にあたりご尽力いただきました、スポンサーの皆様、熊本県ハンドボール協会の皆様、熊本県の関係者の皆様、日本協会の皆様、その他各方面からご尽力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

11月30日～12月9日にかけて、熊本県で第17回女子アジア選手権が行われました。自国開催で迎えた今大会、私たちは「アジアチャンピオン」を目標に大会に臨みました。

予選グループではニュージーランド、オーストラリア、イラン、カザフスタンと対戦しました。ニュージーランド戦、オーストラリア戦、イラン戦では、相手が格下ということもあり自分たちのやるべきことに集中して試合に入りました。初戦では固さがありミスが続く場面もありましたが、試合を重ねるごとにミスも減り、自分たちの武器である粘り強いディフェンスから速攻で流れを掴み勝利することができました。予選グループ最後のカザフスタン戦では、大きい選手に力で押し込まれ苦しい時間帯もありましたが、集中力を切らすことなく戦い抜き、予選グループ1位で準決勝へ進出することができました。

準決勝は中国との対戦となりました。中国には、8月にインドネシアで行われたアジア競技大会で1点差で敗れ、とても悔しい思いをしました。その悔しさを晴らすためにも、絶対に勝たなければいけない相手でした。試合の序盤は、中国選手の高さに圧倒されリードを許す展開となり、オフェンスでも得点のチャンスは作るものの中国のGKに何度も止められ、流れを掴むことができませんでした。前後半共に一進一退の攻防が続きましたが、機動力を生かしたディフェンスで粘って2点差で勝利し、決勝進出を決めることができました。

そして、決勝は韓国と対戦しました。前半は積極的なディフェンスで韓国のミスを誘い、日本が優位に試合を進めることができました。しかし、後半に入り韓国がディフェンスシステムを変えたことで日本が攻めあぐねてしまい、ミスが続いてしまいました。ディフェンスでも体格の良い韓国の左腕エースとポストに押し込まれることが多く、連続失点で点差を離されてしまい、準優勝という結果となりました。

今大会を通して、シュートの精度、個々の強さ、試合中の対応力・修正力が、世界で勝っていくためにはまだまだ足りないなと強く感じました。相手の変化を起こしたときに、試合の中でそれに対応するまでが遅く、流れを持っていかれることが多くありました。対応力・修正力は、今後たくさんの国際試合の経験を積みながら磨く必要があると思います。またメンタル面では、どんなプレッシャーでも打ち勝つ強い気持ちが、本年11月の世界選手権、2020年の東京五輪を戦っていく上でとても大切な要素だと実感しました。

最後になりましたが、大会期間中はたくさんの方々に応援していただき、また私たち選手が試合に集中できるようサポートしていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。自国開催ということで、今まで感じたことのないプレッシャーや緊張がありましたが、それ以上に応援してくださる皆さんの大声援が苦しい時に私たちの背中を押してくださり、たくさんのパワーをもらいました。韓国に勝てなかったという結果をしっかりと受けとめ、この悔しさを2019年の世界選手権に繋げられるように日々努力を積み重ねていきます。本当にありがとうございました。

女子日本代表コーチ 櫛田 亮介

アジア選手権 2018 報告

11月30日から12月9日まで熊本でアジア選手権を戦ってきました。結果は決勝戦で韓国に敗れて準優勝。アジアチャンピオンにはあと一歩届きませんでした。

今回のアジア選手権を元にした約1ヶ月の代表活動を以下に振り返ります。

11月13日から今回の日本代表活動はスタートしました。場所は東京。日本リーグ前半戦を終え、インターカレッジを終え、欧州各国での国内リーグやカップ戦を中断し、代表選手たちは東京に集結しました。

合宿序盤は代表合宿初招集の将来性豊かな若い選手も加わり大所帯でのスタートでしたが、いい緊張感を持ちながら合宿をスタートすることができました。

自国開催のチャンピオンシップを戦う準備として、戦術的な準備だけではなく、計画性を持った栄養補給、メディア対応といった部分でも綿密に準備を重ねていきました。何よりもチームで大切にしていたことは目の前の一戦一戦に集中すること。これに尽きます。

アジア各国の大型選手を想定して男子大学生、男子高校生とのテストマッチを重ねながら熊本入りしました。

予選ラウンドは4戦全勝1位通過で準決勝へ駒を進めました。予選ラウンドのハイライトは互いに3戦全勝同士の対戦となったカザフスタン戦です。身長180cm、190cmを超える大型選手に対して機動力で上回り、フィジカルコンタクトでも負けることはありませんでした。攻守ともに日本のアグレッシブな部分がカザフスタンを上回った試合でした。

準決勝の相手は中国。ドイツ人監督招聘後、着実にチームはビルドアップが進んでいる印象の中国です。8月のアジア大会では大型選手の破壊力ある攻撃を防ぎきれずに1点差で敗れました。今回は前回対戦からの課題を修正することができました。ロングシュートに対して中央のDF陣が果敢に利き腕側からの身体接触を繰り返し、ライン際の攻防でもポストに対して人数を割いて守り抜くことができました。苦しい時間帯が続きましたが、1試合通して選手たちが自信を持って戦い抜いてくれたことが中国戦の勝因です。

決勝の相手は韓国。アジア大会では決勝で中国を破り韓国が優勝しました。現在のアジアの頂点に君臨しているのが韓国です。試合開始序盤から日本の攻撃が韓国DFを上回り1点リードでハーフタイムを迎えましたが、前述の通り後半一気にトップギアに入った韓国に逆転を許して5点差で敗戦しました。後半5:1DFをシステムチェンジしてきた韓国に対して、攻撃時のミスから連続失点しました。なりふりかまわず得点を狙いにきたNo11 サウスポー RYUの個人技に対しての守備などを試合の中で修正することができませんでした。前半の日本の攻撃や試合開始序盤の守備など手応えを感じる部分も少なくなかったのですが惜しくも金メダルには届きませんでした。

2018年の日本代表の活動はこれで一旦終了します。アジアの頂点、金メダルを目指して今回の活動だったので銀メダルに終わったこの結果に対して悔しい気持ちがあるのは当然です。それでもこの大会を通して選手一人一人大きく成長してくれました。

最後に今回のアジア選手権全体を通して、11月末に熊本入りしてから、熊本の皆さんには本当に良くして頂きました。公式練習会場、試合会場、活動拠点になったホテルなど熊本滞在中どこへ行っても熊本の皆さんの温かさが本当にありがたかったです。そしてどの試合、どの試合会場でも超満員の応援スタンドからの「日本コール」に勇気を頂きました。

今回のアジア選手権に関わって下さった全ての皆さん本当にありがとうございました。

ゴールキーパーコーチ アンтони・パレツキ (Antoni Parecki)

女子アジア選手権を振り返って

ファンの皆様、関係者の皆様、熊本での女子アジア選手権では大変お世話になり、ありがとうございました。

私が女子日本代表チームのゴールキーパーコーチとして最初に携わったのは今年7月の欧州遠征（デンマーク）でした。それから9月の欧州遠征（オランダ）と11月の強化合宿（東京）を経て、アジア選手権へ帯同しました。

11月13日から28日まで、東京の味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）での強化合宿をしました。



毎日、行きたくなる。
わざわざ行きたくなる。

LECT

ようこそ、
あなたの
時間へ。

[LECT] 広島市西区扇二丁目1番45号 または lect.izumi.jp

株式会社イズミ <http://www.izumi.co.jp>
本社 〒732-8555 広島市東区二葉の里三丁目3番1号 TEL 082-264-3211(代)

ANTCでの合宿は私にとって初めてのことで、すべてが揃っている立派な施設に驚きました。日本チームには、強くなるための質の高いトレーニングができる素晴らしい環境が整っています。合宿中は男子大学生・高校生との練習試合を3回行い、実戦的なトレーニングをすることができました。ゴールキーパーにとっては特にディスタンスシュートに対するキープに慣れる練習になり、ありがたいことでした。

熊本に移動すると、熱烈な歓迎を受け、いい意味で大変驚きました。フレンドリーで礼儀正しい地元の方々に至るところでお世話になりました。大会中のトレーニング環境も含め、私たちの様々な要望に応じて、勝つために最善の環境を整えていただきました。来年の世界選手権でまた熊本に戻ることを考えると、今回の大会で会場や施設に慣れることができたのは有利なことです。

試合会場での雰囲気も素晴らしく、本当に多くの方々に応援していただいている実感をえました。世界選手権でもぜひ多くの方々に応援していただけるようにと願っています。

最初の3試合は実力差がある相手との試合で、プレーの質が高いものとは言えませんでした。その後の決勝戦までの3試合はレベルが上がり、日本チームは非常に良いパフォーマンスをしたと思います。コートプレーヤー達のプレーも良かったですが、ゴールキーパー陣もパフォーマンスも良く、1試合ずつ成長し続けた大会だったと思います。

決勝戦では韓国に対し、前半は良かったのですが後半で及ばず、銀メダルとなりました。2019年にはさらに多くの試合経験を積み、もっと成長し続けるつもりです。チームの雰囲気は非常に良く、まだまだ伸びると思っています。

私は過去20年以上、主にデンマークを拠点に、男女問わず強豪クラブチームや各国代表チームで指導してきました。女子アジア選手権の後はそのまま男子日本代表チームの合宿に参加しました。ゴールキーパーのトレーニングで重視することは、「状況を読むこと」「正しい位置取りをすること」。基本的なことではありますが、この2つを素早く両立できれば、セーブするための最善の準備となります。状況を読むためには、過去の試合からの相手個人に関するデータを頭に叩き込み、その時々相手のシュートまでの動き方から考えられるシュートコースを予測し、自分自身の身体能力に関する知識、経験的な直観なども総合して一瞬のうちに判断しないとイケません。それをサポートするために、合宿中や大会中にはキーパーの映像、シューターの映像を利用したミーティングをゴールキーパー達と重ねて行い、理解を深め、修正を図りました。ゴールキーパーは大変です。誰にでもできるポジションではないからこそ面白くやりがいがある、ということを選手にはいつも伝えています。

日本人の指導は初めてですが、男女ともに身体能力が高いことに驚いています。トレーニングでは常に新しいメニューを取り入れていますが、すぐにポイントを理解し、素早い動きで新しいエクササイズができる選手が多いです。また、選手達はうまくなりたいというポジティブな気持ちを強く持っていると感じます。日本のゴールキーパーは大きな可能性を持っており、私は彼らを支え続けたいと思います。

これからも、皆様のご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

ドクター 井本光次郎（熊本赤十字病院）

第17回ハンドボール女子アジア選手権（第24回世界女子ハンドボール選手権予選）帯同医報告

今回、女子アジア選手権にチームドクターとして参加したので報告します。

今回は、地元熊本ということもあり、何か問題が生じた場合はハード面において迅速な対応が可能な状況でした。活動拠点と家や所属病院が近い状況でしたが、チームへのサポートを優先させるため、選手、スタッフと同じ宿に宿泊し行動を共にしました。また、佐久間メディカルコーディネーターをはじめ、熊本県内の多くの医師、歯科医師、PT（理学療法士）、AT（アスレティックトレーナー）、鍼灸師、柔道整復師などが大会の医事として活動しておられ、メディカル面では2019年世界選手権を見据えて他国での開催では稀なほどの対応がなされていました。熊本県内のメディカル関係者に敬意を表します。

以下、今回の帯同について報告します。

〈ドクターバッグの内容〉

今回のドクターバッグの内容については、国内開催であり、薬品の調達は容易であると考え、海外ほど特別に考慮しませんでした。しかし慢性的に疼痛を抱えている選手は多く、鎮痛薬やヒアルロン酸、局所麻酔薬は通常より多めに補充しました。また冬場でもあり、総合感冒薬、抗アレルギー薬は多めに充填しました。

〈大会期間中の外傷、疾病〉

大会期間中の主な外傷は、ハムストリング損傷や指靭帯損傷、足関節靭帯損傷、軽度の打撲でした。ハムストリング損傷はパフォーマンス低下によりメンバー交代を必要としました。障害を抱えている症例は外側半月板逸脱、膝軟骨損傷、足関節靭帯損傷、肩腱板損傷などであり、治療方針についてトレーナーと共に協議し、適宜治療、リハビリ、ケアを実施しました。治療は、鎮痛薬の投与に加え、関節注射や局所注射などを行い、疼痛コントロールを図りました。幸いにも、病院受診や搬送を必要とする症例は認めませんでした。

疾病は、鼻炎や咽頭痛、下痢、月経痛、膝前方蜂窩織炎・滑液包炎でした。総合感冒薬や抗アレルギー薬、整腸剤、止下痢剤、抗菌薬などの投与を適宜実施しました。月経痛で疼痛が強い例もあり、婦人科受診やピルの積極的使用についても説明し、今後の治療マネジメントを行う必要があると感じました。

〈ドーピング検査〉

日本選手にTUE（治療使用特例）を必要とする選手はいませんでした。ドーピング検査は、日本チームの場合、最終日の決勝戦にて実施され、試合後に抽選で2名が該当しました。2名ともに過去に数回検査を受けており、検査自体もスムーズに行われました。検査時のトラブルは特に生じませんでした。

〈感想〉

おりひめ JAPAN のチームドクターを努めて2年となりますが、これまでコンディショニングクリニックや前回のアジア選手権、世界選手権に帯同してきました。コンディショニングクリニックではメディカルチェックに加えて、アンチ・ドーピングの講義を実施しています。今回の帯同で気づいた点は、選手のアンチ・ドーピングに対する意識が少しずつ変化してきているということです。これまでは薬の使用についてはあまり質問を受けることがなく、アンチ・ドーピングについての意識は低いのではないかと感じていましたが、選手自身がGlobal DRO（禁止成分のステータスをチェックできるwebサイト）を積極的に使用しており、薬の使用可否についてもよく質問を受けるようになりました。これらはアンチ・ドーピングの講義の際に指導していることでもあり、クリニックの効果が現れていると感じました。

大会期間中、日本チームに大きな外傷や疾病が生じないことはチームパフォーマンスに重要なことです。しかし、大会前からの外傷により調整が必要であったり、慢性的に膝や足関節、肩関節などに障害を抱えている選手は数名おり、パフォーマンスを低下させないためにも日頃のケア、コンディショニングが重要となります。選手のコンディショニングは高野内、岩谷トレーナーの尽力によるものが大きく、遠征や合宿中から夜遅くまでケアし、年間を通じて計画的に調整を行ってくれています。また、味の素さんのサポートによる栄養面の改善も見られ、体重コントロールや日々の栄養バランスへの意識づけも着実にできていると感じます。

また、外傷やコンディショニング情報ツールとしてweb上でONE TAP SPORTSを使用していますが、選手のコンディショニング記入の他に障害の検査画像の保存なども可能となっており、選手の既往歴やアレルギー情報、予防接種情報なども加えてカルテの一部としても活用できます。より早く選手のコンディショニング状況にアクセスし、外傷や疾病などにより早期の対応ができれば、チームビルディングに貢献できると考えます。今後、選手の良好なコンディショニングを行うためにもONE TAP SPORTSを積極的に活用していきたい。

今後、熊本での2019年世界選手権、そして東京2020オリンピックと、メディカルが強化を様々な局面で支える部分があると感じます。今後もトレーナーなどとともにコンディショニングの強化、パフォーマンス向上が得られるように尽力していきたいと思えます。

最後に、大会期間中、所属病院を留守にしている間、私の診療を負担し、おりひめ JAPAN を応援していただいた同僚に感謝します。

おりひめジャパントレーナー 高野内 俊也 岩谷 美菜子

アジア選手権におけるチームトレーナーの活動

2018年11月30日より熊本にてハンドボール女子アジア選手権が開催されました。

当該大会に際してのチームトレーナーの活動を報告いたします。

〈準備〉

今回のアジア選手権においては11月13日～28日までANTCにて強化合宿を行い大会に備えました。

合宿の約一か月ほど前よりフィジカルや機能的な動作スキルプログラム、栄養プログラム、メンタルプログラムなどを大会に向けて実施するため、これらのプログラムとハンドボールトレーニングがスムーズに取り組みられるように、またピーキングを含めてスケジュール調整を実施しました。

合宿召集時には日本リーグ開催期間中ということもあり、特に召集時点でのけがの状況や身体の状態を把握することから合宿がスタートします。身体組成計測、簡易的なメディカルチェック、フィジカルテストなどを実施し、大会までの細かなフィジカル強化プログラムやコンディション管理のための基礎データとしてチェックし、監督と連携しながら細かなスケジュール調整を行いました。

また、大会で利用するホテルと連携し、スケジュールの調整・設備の確保・食事メニューのコントロールなど選手が大会でストレスなく過ごせるような準備も欠かせません。重ねてご協力いただいている味の素ビクトリープロジェクトのみなさまとも連携し、大会期間中のレシピ調整をホテルサイドと行いました。

<合宿期間中の活動>

おりひめジャパンはチーム発足時よりチームのフィジカル目標値・個々人の身体組成目標値を設定し、このアジア選手権・2019年世界選手権・東京オリンピックに向けて継続的な体作りを実施しています。世界で戦うための身体づくりにおいては、味の素ビクトリープロジェクト様の絶大な協力をいただき、日々のライフデータの取得と栄養摂取状況の確認・支援などを推進しています。これは合宿に限らず自チームでの活動時にも ONE-TAP SPORTS を利用してデータを入力し、選手の自己管理・スタッフのサポート・コンディションの管理に役立てています。

日々のトレーナーの活動としては、選手の日々の体調のチェック、トレーニングの準備、ウエイトメニュー作成、テーピング、練習中の選手の状況確認、けがをしている選手のリコンディショニング、治療など、競技を行うために必要なあらゆる準備・活動を行います。特に大会を控えた合宿においては、大会の期間にピークを迎えるためフィジカルトレーニングの強度設定やスケジュール、傷害予防・けがに対するサポートなどに注意を払い活動をしています。

<大会期間中の活動>

大会期間中においては、ホテルの一室をケアルームとして常設し、選手がいつでも出入りできケガの治療やコンディション管理、試合映像を流して分析をしたりリラクゼーションができるようにしています。また今大会においては味の素ビクトリープロジェクトの上野様、鈴木様に期間中帯同いただき、部屋の一部にはニュートリションブースを設けて、選手がいつでも栄養補給ができるよう、また試合時・練習時のコンディション管理ができるようにサプリメント類の設置ならびに栄養スタッフによる相談も実施しました。この試みは選手には好評であり、常に自己のコンディションに気を配るだけでなく競技パフォーマンスにつながる準備ができるような環境構築が行えたと感じています。

試合時においては、2時間前より会場に入りテーピングやストレッチなどの試合の準備、ドリンク類の準備などを行い戦いに備えます。

<総括>

トレーナーは常に選手がベストな状態で戦いに挑めるように、また大会時には緊迫した状態から ON/OFF の切り替えができる環境を作ることを考えてサポートを行っています。今大会においては多くのみなさまの後押しがあり、次年度の世界選手権に向けたトライアルとしても大変有意義な大会であったと感じています。

また今後行われる熊本世界選手権・東京オリンピックに向けては、一人一人が躍動するためのさらなる身体づくりと地元日本で行われるビッグゲームに備えたメンタルプリパレーション、ストレスなく生活できる環境づくりなど、さらなる飛躍のためにサポートを継続的に行っていくとともに、2020年以降の道標となるべく活動を推進していきたいと思っています。

文末となりましたが今大会のためにご尽力いただきました、日本協会ならびに熊本組織委員会のみなさま・ファンのみなさま・関連施設のみなさま・スポンサーのみなさまなど多くの関係者のみなさまのお力添えにより、おりひめジャパンは準優勝という結果を手にすることができたと感じております。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

アナリスト 嘉数 陽介

第17回女子アジア選手権大会 帯同報告

はじめに、第17回女子アジア選手権大会に帯同するにあたり、多大なるご支援を頂きました日本ハンドボール協会、

熊本県ハンドボール協会、熊本県組織委員会、ボランティアスタッフ、そのほか今大会に向けてご尽力頂きました全ての大会関係者の方々に、心より感謝申し上げます。また、共に最後まで熱い声援で選手の背中を押して下さったファンの皆様におかれましても、チームにとって本当に大きな原動力を頂き、重ねて御礼申し上げます。

今大会を戦うにあたり、アナリストとして担った活動は、大きく分けて以下のようになります。

■直前合宿

—コーチング支援・チーム戦術構築のための映像作成、個人用の映像記録—情報収集・相手チーム情報等

■大会期間中

—試合前・ミーティング映像編集（相手の分析用映像・自チームの映像）

—試合中・スタッツの記録（iPad でベンチと共有）、ハーフタイムにフィードバック・共有

—試合後・試合映像の共有、ミーティング資料作成（対戦相手の映像編集、自チームの映像分析）

これまでに、多くのアナリストの方々から報告がなされている通り、大まかな情報処理の流れや作業は以前と大差ありません。特筆したい点は、iPad による情報共有によってより即時的にコートへ情報を送れるようになったことと、選手自身の情報処理サイクルが習慣として根付いていることです。戦術の方向性や相手の情報は、監督からミーティング時に映像を利用しながら説明がされますが、実際にその情報をインプットして、身体に落とし込んでプレーで体現するのは選手自身になります。そういった観点では、昨年から比べると、選手が自ら映像や数字を受け取って分析し、それぞれが自分のプレーに活かす情報処理サイクルは効率化・加速化しているように感じます。どんなに疲労困憊でも必ずその日の自分のプレーを映像で振り返る選手も少なくありません。ポジションごとに独自の映像編集やオーダーも増えてきました。仕事は大変になりますが、非常に価値の高いことであり、なんとかそういう選手のための環境を整えてサポートしたいという気持ちで力を尽くしています。

近年、欧州・アジア各国のデータ(スポーツ科学)の活用は、急速に進化してきていることが明白です。フィットネスデータ、戦術・パフォーマンス分析等、それぞれにおいて各データの量・質・即時性は、以前にも増してコーチング現場に根付いており、アジアにおいても、新たに世界トップ指導者を招聘したことで大きく変化し始めている国も現れてきました。しかしこの分野では、熊本世界選手権・東京オリンピックの2大会でホスト国となる日本は、どの国にも負けないサポート体制を作れる可能性があることに強みがあると感じます。

関係者の方々のご支援のもと、今後もチームのサポート活動に尽力したいと思います。

改めまして、今後ともおりひめ JAPAN へご声援のほど宜しくお願い申し上げます。

注目：様々な情報が掲載されています。一度訪問しませんか？

日本協会HP「指導・育成・普及委員会」

日本ハンドボール協会の、選手の指導・育成、競技の普及活動は、指導・育成・普及委員会にて行っております。指導・育成・普及委員会では専用のサイトで情報を発信しておりますので、こちらをご覧ください。

「指導委員会 公式 YouTube チャンネル」

<https://www.youtube.com/channel/UC4Tek6ICMSaxbSqmilSCnCQ>

★直近のアップ内容は・・・

2018年度コーチレフェリーシンポジウム パネルディスカッション 01 「日本におけるモダンハンドボールの上半期の評価と課題」日本ハンドボール協会指導委員会 <https://www.youtube.com/watch?v=7F7TnGap1uk>

2018年度コーチレフェリーシンポジウム パネルディスカッション 02 「日本におけるモダンハンドボールの上半期の評価と課題」日本ハンドボール協会指導委員会 <https://www.youtube.com/watch?v=-P5a--lZQRo>

2018年度コーチレフェリーシンポジウム パネルディスカッション 03 「日本におけるモダンハンドボールの上半期の評価と課題」日本ハンドボール協会指導委員会 <https://www.youtube.com/watch?v=L2jfrbKMzbY>

2018年度コーチレフェリーシンポジウム レフェリーの心得
日本ハンドボール協会指導委員会 <https://www.youtube.com/channel/UC4Tek6ICMSaxbSqmilSCnCQ>

戦評：予選ラウンド【Group A】

日本 41 (20-2、21-3) 5 ニュージーランド

ニュージーランドのスローオフでゲーム開始。日本は守って速攻の形から得点を重ね、立ち上がり5対0とリードする。さらにサイドから飛び込み、相手ディフェンスから2回目の退場を誘い、数的優位な状況からさらに得点を重ねていく。特に両サイドからのシュートが冴え、相手に付け入るスキを与えない。9対0になったところでニュージーランドがたまらず、チームタイムアウトを選択した。その後ポストで2点を取り、勢いに乗るかと思われたが、その後速攻により点差を広げられる展開となった。日本も一気にいきたいところであったが、決定的なところでミスが続き、勢いに乗れない感があった。盛んに選手交代をし、スピード感あふれる速攻を中心にサイド、ブラインドと多彩な攻撃を見せた日本が20対2と大量リードで前半を折り返した。

後半に入っても攻撃の手を緩めない日本は、No.20、No.13のサイド、No.24の7mTをもらい、No.15が確実に決めて食い下がる。GKも踏ん張り、日本のノーマークシュートをたびたび止める場面が見られた。しかし、地力に勝る日本は相手のミスを見逃さず、素早く速攻を仕掛け点差を広げていく。2枚目のディフェンスを引き付けて、サイド勝負の展開が面白いように決まり、ニュージーランドのディフェンスはなすすべがない状態であった。サイドのNo.18が9得点をたたき出し、安定したシュート力を披露した。日本は走力の違いを見せつけ、出場選手全員が得点するなど力の差を見せつけた。しかし、ところどころで、動きに硬さが見られた。41対5で日本が大勝したが、課題も残る内容であった。



戦評：予選ラウンド【Group A】

日本 37 (19-8、18-10) 18 オーストラリア

日本のスローオフでゲーム開始。日本はNO.5のフェイント、No.18のサイドで得点し、オーストラリアはNo.8のミドル、No.6のポストで応戦する。日本はGKの堅守もあり、7分過ぎ、6対3とリードする。オーストラリアはディフェンスが機能しなくなったところで、チームタイムアウトを請求し、流れを変えようと試みる。ディフェンスで頑張り、速攻を出すのが相手GKのファインセーブもあり、得点につながらない。一方日本はNo.24のカットインで点差を広げ15分、9対5とする。さらに、No.21のサイドからの連続得点で13対5とさらに点差を広げた。No.21の勢いは止まらず、14対5とするが、その後退場により、数的不利な状況となる。この局面をサインプレーによる得点で切り抜けて、17対7とリードを保った。最後は確実に得点するために7人攻撃も見せ、19対8で日本が大量リードで前半を折り返した。

後半に入ると、お互いに決定力を欠き、硬直状態が続

くが、日本はNo.13のトリッキーなサイド、No.24のカットインで得点を重ね、5分、22対9と点差を広げる。オーストラリアはNo.8のミドルで後半初得点を取るが、味方がディフェンスで二人連続退場になると、守れずにファールを連発し、7mTを与えてしまう。オーストラリアも頑張ってもNo.22のカットインなどで強引に攻めて、得点するが、その折り返しをすぐに速攻で返されてしまい、点差を詰めるには至らない。15分、29対14になったところで勝負ありの感があったが、両チームとも熱のこもったゲームを展開した。日本は昨日と同様にめまぐるしくメンバーチェンジをし、スピーディなハンドボールを展開した。22分過ぎ日本はチームタイムアウトを取り、7人攻撃を仕掛け、さらに点差を広げにいく。最後まで攻撃の手を緩めなかった日本が37対18と大差でオーストラリアを下した。



戦評：予選ラウンド【Group A】

日本 31 (15-5、16-3) 8 イラン

スローオフはイラン。日本は積極的な6-0DFで試合が始まった。日本は右サイドから2本シュートを放つが得点ならず。日本は3分過ぎNo.24のカットインで先取点。イランNo.4のポストプレーで同点。日本は7分過ぎ7mTを獲得。落ち着いてNo.9が得点。日本No.9のカットインで本日2得点目。3点目もNo.9カットイン。前半10分相手サイドシュートが顔面を直撃したアクシデントがあったが、日本は畳みかけるような攻撃で12分6対1とリードを広げる。さらに日本は7人攻撃をしかけてNo.18がスカイプレーで得点を決める。イランも大型ポストを投入して反撃を試みるが、逆に日本に7mTを与えNo.25が確実に決めた。20分過ぎ10対2とリードする日本が、確認の為チームタイムアウトを申請。23分過ぎ相手の退場で7mTを獲得しNo.9が得点。この時点で12対2。26分過ぎイランの大型ポストが3点目。27分過ぎ相手退場で7人攻撃を試みるが失敗。イラン4点

目はNo.19のサイド。決定的なチャンスを得点に結ぶことができなかった日本が15対5で前半を折り返す。

後半出だしは日本コントロールタワーのNo.9カットインで得点。日本は3連続得点。イランはダブルポストにスタイルを変更するが得点に繋がらない。13分過ぎ日本の申請でチームタイムアウト。その直後速いパス回しで得点をあげた。18分過ぎ堅守速攻で得点を重ねた日本が24対7でリード。20分、イランはスカイプレーを試みるが失敗。なかなか噛み合わないイランは21分チームタイムアウトを申請。その後、地力に勝る日本は攻撃の手を緩めず、速攻やコンビネーションプレーがさえ点差が広がるゲーム展開になった。GKNo.12の堅守もあり、ゴールを割らせなかった。立ち上がりからパス・シュートが思うように決まらなかったが、後半途中からは日本らしい展開力が見られた。その結果、31対8で勝利し準決勝進出を決めた。



戦評：予選ラウンド【Group A】

日本 31 (14-11、17-13) 24 カザフスタン

スローオフは日本。カザフスタン 6-ODF で試合が始まった。一方の日本は積極的な 6-ODF。攻防の中、カザフスタンに 7mT。No.96 が冷静に決め先制。すかさず日本は、No.3 のポストプレーで得点し更に相手の退場を誘った。日本の 2 点目は No.18 の左サイドからの得点。カザフスタン 2 人目の退場となり、No.21 右サイドからの得点で 3 対 1 とリード。日本は 9 分過ぎから 7 人攻撃で No.3 のポストプレーで得点するが、カザフスタンも No.96 の 7mT で食い下がり、まさに一進一退の攻防となった。13 分過ぎに 4 対 6 と 2 点差をつけられたカザフスタンはチームタイムアウトを申請。日本は、3-2-1DF で積極的に仕掛けるが、不運な失点。20 分過ぎカザフスタンはダブルポストで攻めるが、日本 GKNo.30 の好守が光り、速攻で 4 点差をつけ 11 対 7 とリードする。22 分過ぎ、コンビネーションプレー・左サイドから連続得点をあげ波に乗る。25 分過ぎに 14 対 9 と初めて 5 点差をつける。カザフスタンは大型のポスト No.14、No.15 を投入し、ポストから得点し点差を詰め、日本は 14 対 11

で前半を折り返す。

カザフスタンは、1 人少ない日本に対し、前半終了同様の高いダブルポストで攻め 7mT を獲得し先制。直後、相手選手の退場を機に No.9 が 7mT を決め 15 対 12 と 3 点リード。高いポストプレーヤーにマークを集めた隙をつかれて、No.9、No.3 と連続失点したところで日本はチームタイムアウトを申請。速いボール回しから DF を揺さぶり、落ち着いて No.18 が左サイドからループシュートで得点し 3 点差。その後、日本は 4-2DF で仕掛け、No.24 速攻スカイプレーで 4 連続得点し 19 対 15。5 点差をつけられたカザフスタンは溜まらずチームタイムアウトを申請。直後 7mT を獲得し No.24 が決め 5 点差。20 分過ぎ 25 対 20 と 5 点差で日本がリード。23 分日本の GKNo.12 ファインセーブで流れを渡さない。カザフスタンは 25 分過ぎ、8 点差となったところで 2 回目のチームタイムアウトを申請。終始足が止まらなかった日本が攻守にさえ、31 対 24 で終了。日本は予選ラウンド A グループを 4 戦全勝とし、準決勝進出を果たした。



新刊

ハンドボールスキルアップシリーズ 目からウロコのDF戦術

スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著
B5判 144ページ 1,800円+税 発行元 グローバル教育出版

ハンドボールに欠かすことのできないDF。そのDFについて、1対1の守り方から始まり、チームとしての守り方まで、日本を代表する指導者が解説しています。また、DFシステムについても詳細に紹介。「DF」ならこの1冊にお任せください。

既刊



目からウロコの個人技術
1,800円+税

戦評：準決勝

日本 23 (11-11、12-10) 中国 21

準決勝第2試合目のスローオフは日本。中国は5-1DF。日本は、No.4が7mTを獲得しNo.24が確実に決め先取点を奪った。しかし4分過ぎ、中国は高いポストを活かし得点を重ね3対1と逆転。6分38秒日本は不正入場で退場者を出す。得点チャンスをことごとく中国GKNo.22に阻まれ、3点を追う日本はチームタイムアウトを申請。日本は、7人攻撃に切り替え1点差。中国もチームタイムアウトを申請。16分過ぎ中国左サイドNo.10のシュートが決まり5対8の3点差。日本はラインを上げた5-1DFにシステムチェンジし、中国の高さを粘り強く守る。ここで18分59秒2度目の不正交代で痛恨の退場。中国GKNo.22がサイドシュートや速攻をスーパーセーブ。中国もGKを下げ7人攻撃とし日本のDFラインを下げる。必死のDFから、No.13、No.28の連続攻撃でついに10対10に追いつく。中国No.34のロング、日本No.20サイドシュートと1点ずつ加え11対11の同点で前半終了。

中国のスローオフで後半戦開始。6-0DFでスタートし

たが、開始早々中国No.2に間を割られ得点を奪われる。さらに7mTをNo.34に決められ連続失点。日本は2分45秒No.20のサイド、No.25の速攻が決まり13対13の同点。日本は高い位置からアグレッシブDFに切り替える。その後、日本No.13、中国No.34で加点。8分25秒中国No.2の退場の際にNo.25が得点し15対15の同点。拮抗したゲーム展開となる。その後、日本は10分43秒2連続失点の後、チームタイムアウトを申請。直後7mTをNo.24が確実に決める。13分、一進一退の攻防が続く中、7人攻撃に失敗し失点。17分日本No.21がサイドシュートを決め1点差。18分19秒中国はチームタイムアウトを申請。直後日本はキーパーの攻守からNo.21の速攻が決まり19対19の同点。さらにNo.18のサイドシュートで逆転。しかし中国も2連続得点で再び20対21と逆転。残り5分を切り日本も負けじとNo.9の速攻で同点とし、GKのフィンセーブから3連続得点を決め23対21で勝利した。ベストプレーヤーオブザマッチは8得点をあげた日本No.24が獲得した。



戦評：決勝

日本 25 (15-14、10-16) 30 韓国

決勝のスタートは韓国。日本は積極的な6-ODF。先制点は日本No.9のミドルで得点。大歓声の中、序盤は日本のDFが機能し3対1とする。突き放したい日本は7人攻撃を仕掛ける。流れを掴みたい韓国は8分44秒にチームタイムアウトを申請。10分過ぎ、日本はNo.24の7mT等で3連続得点し6対2とする。韓国はNo.20のロング、No.23のミドルで5対8と追い上げを見せたところで13分18秒に日本がチームタイムアウトを申請。14分46秒に韓国No.20の2分間退場の際に日本はNo.21のサイドで連続得点し10対7とする。一方、韓国はNo.11のミドル、カットインで応戦。18分37秒日本No.3が2分間退場で、一人少ない状況であったがGKの好セーブでピンチを凌ぐ。さらに22分過ぎ3-3DFに変更し流れを変えようとする。2分間退場で一人多い韓国はNo.23のミドル、No.11のロングでついに13対13の同点とする。日本は終了間際に獲得した7mTをNo.9が確実に決め15対14の1点リードで前半終了。

後半は1点リードの日本のスタートで試合開始。韓

国がNo.7カットインで先制すると、3分過ぎ韓国No.23の速攻、No.11のポストで18対16と逆転する。流れの悪い日本は5分09秒のチームタイムアウトの申請。6分02秒韓国No.20が2回目の2分間退場となるが、ここから7連続得点で日本を突き放す。17対23となったところで10分18秒日本は3回目のチームタイムアウトを申請。直後日本は3-3DFに変更し局面を打開しようとする。韓国はGKの再三のファインプレーをきっかけに主導権を握り、試合を優位に進める。さらに20分過ぎ多彩な攻撃を誇る韓国はNo.6のミドル、No.11のポスト等で得点を重ね28対20とリードを広げ、20分53秒No.19の得点でこのゲーム最大の9点差となる。残り4分日本はNo.20、No.13のサイド等で5連続得点し懸命の粘りを見せるが万事休す。30対25で韓国の4大会連続14回目の優勝で試合終了。

ベストプレイヤーオブザマッチは、この試合11得点と大活躍の韓国No.11が獲得した。



第2回全日本マスターズ ハンドボールシニア大会

開催期間 2018年11月16日～11月18日
開催地 愛知県・豊田市
会場 緑の公園トレーニング場
(小原トレーニングセンター)



第2回全日本マスターズハンドボールシニア大会 試合結果
2018年11月17日～18日

第1日 午前
Aリーグ

	桜鑑会シニア	秋桜柏	横浜平沼 マスターズ	HC名古屋 中部ドリームズ	勝	分	負	
桜鑑会シニア	-	19 - 9	22 - 9	23 - 15	3	0	0	1位
秋桜柏	9 - 19	-	20 - 10	6 - 25	1	0	2	2位
横浜平沼マスターズ	9 - 22	10 - 20	-	19 - 12	1	0	2	4位
HC名古屋 中部ドリームズ	15 - 23	25 - 6	12 - 19	-	1	0	2	3位

Bリーグ

	神楽坂 フェニックス	HC名古屋ATF	東京都 社会人連合	岐阜MHC-A	勝	分	負	
神楽坂フェニックス	-	17 - 2	29 - 11	3 - 20	2	0	1	2位
HC名古屋ATF	2 - 17	-	27 - 3	1 - 15	1	0	2	3位
東京都社会人連合	11 - 29	23 - 27	-	7 - 28	0	0	3	4位
岐阜MHC-A	20 - 3	15 - 1	28 - 7	-	3	0	0	1位

午後

誕生月	誕生月 1. 2. 3月	誕生月 4. 5. 6, 7月	誕生月 8. 9月	誕生月 10. 11. 12月	血液型	A型	O型	B, AB型
1. 2. 3月	-	21 - 13	16 - 12	14 - 12	A型	-	13 - 6	16 - 6
4. 5. 6, 7月	13 - 21	-	14 - 23	14 - 23	O型	6 - 13	-	12 - 8
8. 9月	12 - 16	23 - 14	-	10 - 12	B, AB型	6 - 16	8 - 12	-
10. 11. 12月	12 - 14	23 - 14	12 - 10	-				

第2日 午後 (11月18日)

	桜鑑会シニア	神楽坂 フェニックス	秋桜柏	岐阜MHC-A	勝	分	負	
桜鑑会シニア	-	18 - 20	8 - 8	17 - 16	0	1	2	4位
神楽坂フェニックス	20 - 18	-	5 - 8	6 - 10	1	0	2	3位
秋桜柏	8 - 8	8 - 5	-	2 - 18	1	1	1	2位
岐阜 MHC-A	16 - 7	10 - 6	18 - 2	-	3	0	0	1位

	横浜平沼 マスターズ	HC名古屋 ATF	東京都 社会人連合	HC名古屋 中部ドリームズ	勝	分	負	
横浜平沼マスターズ	-	4 - 10	17 - 12	8 - 21	1	0	2	7位
HC名古屋ATF	10 - 4	-	17 - 17	11 - 13	1	1	1	6位
東京都社会人連合	12 - 17	17 - 17	-	16 - 22	0	1	3	8位
HC名古屋 中部ドリームズ	21 - 8	13 - 11	22 - 16	-	3	0	0	5位



平成30年度第2回全日本マスターズハンドボール小原大会(交流型 シニアの部)を終えて マスターズ専門委員会委員長 小山 哲央

第2回全日本マスターズシニア大会は11月16日(金)から11月18日(日)までの3日間、豊田市小原地区(旧小原村)の緑の公園トレーニングセンターで開催されました。今年は四季桜の里と呼ばれるのに相応しい咲き揃いで、大会期間中に満開を迎えることが出来ました。桜のピンク、モミジの紅色、更にイチョウの黄金色の3色が見事な色合いを奏でました。

大会は男女とも年齢制限を設け、男子は60歳以上、女子は50歳以上をシニアの部としており、今回は8チーム、選手合計76名が参加しました。

11月16日(金)

1、会場設営(午前10時～午後3時)

小原地区は2年連続の開催ですが、これまでハンドボールとは全く縁がなく、大会競技役員の皆様には会場準備に大変苦勞をお掛けしたと思います。

コートは体育館のフロア面積に合わせてサイドライン32m×エンドライン17mのミニコートを作りました。

1) ゴールポストの輸送について

ゴールポストは県立知立東高等学校所有の組み立て式を一組、名古屋市立矢田中学校所有の折りたたみ式一組をお借りし、それを輸送するトラックもお借りしました。

2) 壁面破損予防用マットについて

体育館の壁面破損を予防するために中京大学豊田学舎の柔道研究室から受身練習用のマット8枚をお借りし、ゴールポストの両横に吊り下げました。

2、競技運営委員会

競技運営委員会は、本来はチーム代表者が出席し運営される会議ですが、シニア大会では多くの参加者に出席して頂き、シニア大会ならではの趣旨を話し合う場としています。

〈議題1 来年度の開催について〉

来年開催される女子ワールドカップ熊本大会の大会推進事務局の奥園栄純氏よりワールドカップ開催期間中に全日本マスターズシニア大会の開催について打診がありましたことを告げましたところ、約60名の出席者のほとんどの方から参加するとの意見がありました。開催時期などの詳細については事務局と打ち合わせを行うことにしました。

〈議題2 ゲーム運営について〉

昨年度もシニア大会独自のゲーム運営を実施しました。今年度も同じ方向で行うことを決定しました。

1) 11月17日(土)のゲームについて

①午前の部

参加8チームを2つのブロックに分け、それぞれ総当たり制で行う。

②午後の部

- a) チームを分解し、誕生日を4分割し、総当たり制で行う。
- b) 血液型の(A型)(O型)(B型とAB型)の三分割にして総当たり制で行う。

2) 11月18日(日)のゲームについて

11月17日(土)の午前の部で行った二つのブロックの1位、2位の4チームと3位、4位の4チームがそれぞれ総当たり制で行う。以上の内容でゲームの運営をすることを決めました。

3、開会式について

競技運営委員会終了後引き続き会場を変えて、開会式を立食パーティー方式で行いました。

(公財)日本ハンドボール協会を代表して普及委員長・山本繁氏からご挨拶を頂き、今大会の最年長選手の五島郁太郎さんに乾杯の音頭を取っていただきました。その後約2時間歓談の場としました。

11月17日(土)

ゲーム運営及び結果について

①午前の部

あらかじめ実行委員会が作成した8チームをABの2つのブロックに分けリーグ戦を行った。

②午後の部

- a 誕生日を4分割し、4チームの総当たり戦を行った。
注) 誕生日で7月生まれは2名と極端に少なかったため、ブロックで一番少なかった4月5月6月に移動した。
- b 血液型で分割し、3チームの総当たり戦を行なった。
注1) B型 AB型を統合して1チームとした。
注2) 昨年も驚いたことだが、ハンドボーラーはA型と同じくらいO型がいることがわかりました。

③懇親会

11月17日(土)午後6時よりつどいの丘宴会場で全員集合の懇親会を開きました。

まず最初に岐阜MHC-Aのゴールキーパー渡辺武様の乾杯の音頭で賑やかな会が始まりました。会の半ばに、全日本マスターズでははじめてとなる「ビンゴゲーム」を行いました。これまでの大会で参加賞として配布しましたTシャツやリストバンド等が手元に残っており、更に(株)モルテン提供のトートバッグや霧島酒造(株)提供の「黒霧島EXデリシヤスペンタゴン」等の豪華賞品を加えました。参加した皆さんはビンゴが当たるたびに一喜一憂しながらこの余興を楽しんでいました。

会の締めとして、参加者の一人秋桜柏(秋川倶楽部、櫻ドル・柏クラブ連合チーム)の名ゴールキーパー杉山努様からシニア大会の原点となるようなお話を頂きました「チーム単位でゲームを行うことは勿論楽しいのですが、チームを分解し、誕生日や血液型でチームを作って行うハンドボールは我々シニア年代の特権のように思います。参加した8チームが一つのチームに纏まったような一体感を覚えました。」この一言に私自身も納得し、感激しました。

11月18日(日)

11月17日(土)の午前の部の結果を踏まえて各ブロックの1位・2位チームと3位・4位チームでリーグ戦を行なった。ゲーム終了後全員の集合写真を撮影し大会を終えました。

最後に

シニア大会は今年も多くの方々ボランティアのお力添えを頂き、無事終了することができました。

HC名古屋ATF・中部ドリームズ、MMCMのそれぞれシニア予備軍の皆様が我々選手にゲームだけを楽しめるように献身的に大会を運営して下さいました。

名古屋市からわざわざ来て頂きました愛知県柔道整復師の皆様には選手一人一人に声をかけ、丁寧にテープを巻いて下さいました。お世話になった多くの選手から感謝の声が我々スタッフの耳に入ってきました。

写真家の原田さんは何台ものカメラを肩に掛けコート周辺を移動し、一瞬一瞬を撮影する姿とでき上がった1枚1枚の写真に感動を与えて下さり、感謝の思いでいっぱいです。

ご協力いただきました皆様方本当に有難うございました。今後ともお付き合いの程宜しくお願い申し上げます。



フィッティングを追及した軽量スピードモデル

GEL-FASTBALL 3

THH546 / 本体価格 ¥11,800+税




5001 インシグニアブルー x ホワイト



001 BLACK/SHOCKING ORANGE

7月中旬発売予定

 アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。

本体価格は消費税抜きのメーカー希望小売価格です。 ■商品についてのお問い合わせ先：アシックスジャパン株式会社お客様相談室 0120-068-806
■当社ホームページ asics.com からもお問い合わせをいただけます。



Tokyo 2020 Gold Partner
(Sporting Goods)

2018 Taiwan Gangdu Cup Beach Handball Tournament

最終順位

【女子】

優勝：チャイニーズタイペイ B
2位：ベトナム
3位：チャイニーズタイペイ A
4位：日本
5位：香港
6位：シンガポール

【男子】

優勝：チャイニーズタイペイ A
2位：チャイニーズタイペイ B
3位：香港
4位：フィリピン

大会期間：

2018年12月1日～2日

開催地：

台湾・高雄市

ビーチハンドボール女子日本代表

2018 Taiwan Gangdu Cup Beach Handball Tournament メンバーリスト

役職	氏名	所属	
チームリーダー	本間 誠章	公益財団法人日本ハンドボール協会 ビーチハンドボール委員会	年間民宿 静月荘
監督	沖本 哲郎	公益財団法人日本ハンドボール協会 ビーチハンドボール委員会	タイムメーカーサポーター
コーチ	高橋 佑奈	日本体育大学	

	氏名	所属	生年月日	身長	出身校
1	柴田 万緒	日本体育大学	1996.10.11	161	大谷高等学校
2	竹谷 美樹	日本体育大学	1997.12.30	169	水海道第二高等学校
3	行本 朱里	日本体育大学	1998.01.19	160	高津高等学校
4	今川 真奈	日本体育大学	1999.11.16	167	日川高等学校
5	小林 可奈	日本体育大学	1999.11.17	159	水海道第二高等学校
6	八木 和紗	日本体育大学	2000.02.21	158	宣真高等学校
7	星野 美佳	KUNO I C H I	1984.02.27	161	愛知教育大学
8	中谷 香織	KUNO I C H I	1987.12.02	169	国際武道大学
9	加藤 真彩	KUNO I C H I	1994.07.11	163	東海学園大学
10	櫻井 香清	KUNO I C H I	1997.03.04	163	岡崎城西高等学校



監督 沖本 哲郎

2018年11月29日に台湾高雄市に向け出発し、夕方に高雄空港に到着、ボランティアスタッフと合流した。ホテルまでは、バスで30分程の距離で到着後すぐにチェックインできた。29日は移動での疲れを癒すため、夕食後は、軽いミーティングだけで就寝した。

翌30日は、試合会場にて、午前と午後に1時間の練習時間を割り当てていただいた。気温は30度程だったが、日本の夏と比べると湿度は低く、予想していたよりも体への負担は少なく済んだ。夕方からテクニカルミーティング、歓迎レセプションが行われた。台湾ハンドボール協会の理事長より、「1. 国際交流、2. 競技力向上」が主旨であるとの説明があり、今後も継続して大会を開くので毎回日本チームも参加してほしいとお誘いいただいた。

試合会場は、街中の公園内にビーチバレー専用のコートが常設されており、今回の大会の為に、ビーチハンドボールのコートを設営されていた。砂の感触は、日本の砂浜よりは粒子が細かく、柔らかかった。今年全日本ビーチハンドボール選手権大会を開催した愛知県碧南市のビーチ専用コートに近かったため、選手もすぐに適応できた。観客席が常設されており、多くの観客が観戦しにきて、立ち見も出るほどだった。台湾の放送局、博斯體育台が全試合ではなかったが、Youtubeでライブ配信しており、台湾でのビーチハンドボール人気が出始めていることがうかがえた。

3位決定戦後に、大会側のサプライズで当日誕生日を迎えた中谷選手を会場全員で祝ってもらえ、選手個々に配慮していただけた大会運営のすばらしさを実感した。

<戦評>

Bグループ：3チーム予選リーグ

■12月1日(土)

日本 2(23-12・20-6)1 香港

1st Period: 日本の早いパス回しでディフェンスを広げ、RWからLW、LWからRWへの飛ばしパスからのシュートが余裕を持てる状況を作り、LW行本、RW加藤が落ち着いてスピンシュート^{*1}を決め、点差を広げることができた。途中、香港の早い攻めで押される場面もあったが、ディフェンスを修正し、追撃を抑えることに成功した。

2nd Period: 1st Periodで得点を量産したLW行本へのマークが厳しくなったが、その分PV、RWが空き確実に点数を重ねることができた。守っても前半から動きの良かったディフェンス陣の奮闘により、香港の攻撃を防ぐことができた。

日本 0(7-12・10-11)2 チャイニーズタイペイ

1st Period: LW行本のスピンシュートで先制するも、なかなか追加点を取れない我慢の時間帯が続く。DFでは、柴田、今川の高い位置からのプレスが機能し、チャイニーズタイペイの攻撃のリズムを狂わすことに成功。GK櫻井のキーピングも光り、ロースコアで試合が進む。最後チャ



2018 Taiwan Gangdu Cup Beach Handball Tournament

イニーズタイペイに流れが傾き追いつくことができなかった。

2nd Period: お互い好守備により3分30秒まで0-0で進む。GK竹谷のダイレクトゴールで得点を重ねるも、香港は高さあるポストのインフライトシュート^{※2}で得点する。一進一退の攻防が続き、ラスト30秒10-10日本ボールでタイムアウトを取る。確実に1点を取り逃げ切りたところであったが、阻まれゴールデンゴールへ。ジャンプボールをキャッチされそのままシュートされ敗退となった。日本、香港、チャイニーズタイペイBによる3チームのリーグ戦を行い、その結果1勝1敗でリーグ2位となり12月2日の決勝トーナメントへの進出が決定した。

■ 12月2日(日)

<準決勝>

日本 0(6-14-11-12)2 ベトナム

1st Period: スピンシュートがシュートブロックされ、枠内に収まらず、得点を上げることができない。DFはプレッシャーをかけることができ、GK櫻井と連携しベトナムの得点を抑えるも、日本の得点が伸びず1st Periodを落とす。

2nd Period: お互いにDF、GKが活躍し、点が取れないまま8分の時点で8-8とロースコアで進み、相手のファールにより6mペナルティシュートのチャンスを得るも相手GKに阻まれる。10-10残り25秒日本ボールでタイムアウトを取り、確実に点を取り逃げ切ることを確認する。ラ

スト5秒でRW加藤のシュートで11-10の1点リードとし、ベトナムが残り5秒でタイムアウトを取る。時間を使わせて守ることを確認したが、タイムアウト明けに13mから放った相手SP^{※3}のロングシュートに反応できず11-12で逆転され勝負あり。

<3位決定戦>

日本 0(7-13-14-17)2 チャイニーズタイペイA

1st Period: GK竹谷の好セーブが光り、チャイニーズタイペイのシュートを防ぐも、日本の攻撃も阻まれ、7分経過しても、6-6とロースコアの展開。その後、日本の攻撃はパスキャッチミスが続き、チャイニーズタイペイは徐々にシュートが決まり7-13で1st Periodを落とす。

2nd Period: チャイニーズタイペイPVのスピッシュュートで先制されるもRW加藤のスピッシュュートで応戦する。その後はシーソーゲームとなるも、6分過ぎから日本のシュートは決まらず、逆にチャイニーズタイペイが連続得点し、残り2分10-15でタイムアウトを取る。PVを外し、カットイン狙いの攻撃が当たり、連続得点で14-15とする。残り20秒高い位置からプレッシャーを掛けミスを誘うもチャイニーズタイペイのSPに決められ14-17で試合終了となる。

<今後の対策と課題>

2年前のアジアビーチゲームズでは0-2で敗戦した香港に2-0で勝てたことは大きな成果である。上位チーム



とも互角に戦えるセットもあり、今後の強化次第では、上位に食い込む余地は見られた。

特にディフェンスは、上位チームの攻撃を苦しめた場面が多かった。身長が低い分、運動量で補うことは可能である。しかしながら、身長を越すパスによるインフライトシュートへの対応ができていないことは今後の課題である。

オフェンスに関しては、他の国に比べてジャンプが低くスピンシュートもインフライトシュートも着地の判定を取られることが多かった。他国の選手で同じくらいの身長でも、シュートの打点は高く、滞空時間は明らかに長いため、シュートに余裕があった。

ジャンプボールに関しては、今回勝つことができなく相手ボールからの攻撃からで常に後手に回ってしまった。オフェンス、ディフェンスに時間を割きがちだが、マイボールから試合を組み立てるのは大きな余裕が生まれる。また、同点でゴールデンゴールに持ち込む選択肢も増えるため、ジャンプボールを確実にマイボールにする練習も必須である。

チャイニーズタイペイB戦、ベトナム戦は残り時間の使い方次第では、セットを取ることもできていたので、試合経験の少なさが露呈してしまった。ベトナムの選手は週6回ビーチで練習しているとのこと。現状では、ビーチで毎週練習することは難しいが、愛知では、今年の夏以降継続して月2回のビーチコートでの練習会を開催しているので、ビーチハンドで世界を目指す選手には是非とも練習に参加して切磋琢磨してもらいたい。

<選手村での生活>

今回の遠征は、ホテルでの滞在で、居住空間は快適だった。食事は、3食ともバイキングスタイルで、和洋中と種類も豊富で食事に困る選手もおらず、体調を整えることができた。

全チーム同じホテルでの滞在だったため、食事の際に交流することもでき、国際交流という観点でも大会側の配慮を感じられた。

日本チームを担当してくれたボランティアスタッフの王さんは、語学力に優れており、台湾語、中国語、日本語、英語など7か国語を話せる方でした。普段は、現地日本人の通訳として仕事をしているそうで、日本に精通しているため非常に心強く、安心して競技に集中できた。

最後に今大会に参加させていただいた日本ハンドボール協会、短期間でユニフォームを準備していただきました業者の皆様、選手派遣をしていただきました企業、大学の関係者様、現地まで応援に駆けつけていただけたご父兄様に深く感謝し、お礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

(※1) スピンシュート：両足をそろえてジャンプし、空中で360度回転してシュート。シュートが決まれば2点。

(※2) インフライトシュート：空中でボールをキャッチし、着地する前にシュート。シュートが決まれば2点。

(※3) SP：プレイングエリアに出たゴールキーパーのこと。シュートが決まれば2点。

主将 星野 美佳

はじめに、今大会開催に向け、ご尽力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

また、日本代表として今大会に参加出来たことはとても嬉しく、大会出場に向け準備して下さった皆様、応援していただいた皆様へも深く感謝致します。

試合結果としましては、優勝を目標として挑んだものの、予選ラウンド1勝1敗2位通過。翌日迎えた準決勝、3位決定戦は敗戦してしまい、4位という悔しい結果でした。

試合内容としましては、以前より代表が取り組んできたアグレッシブなDFが機能し、またGK2名の活躍で失点を抑える事ができました。

課題であるOFでは、どこからでも2点のシュートを狙える布陣で戦えた事、日本の持ち味であるコンビネーションや早いパス回しでノーマークを作る事に手応えを感じたものの、最終局面のシュートに大きな課題を残す事となりました。

今回、10名中8名が代表初経験というチーム編成で自身も初代表で右も左も分からないまま挑んだ大会でした。その中で戦える手応えと個人スキルの低さを痛感出来たことは今後必ず繋げていかなければいけないと強く思っています。

日本では過去、夏場の活動のみとなっていたビーチハンドボールですが、この経験を生かす為、早速練習を再開し次の目標へと進みたいと考えています。今年は愛知県にビーチ専用コートが作られ、通年、砂上での練習が実現することが出来ています。また国内では夏しか大会開催されていない為、海外大会への参加も個々のチャレンジとして取り組む予定もしています。

上記のように様々なチャレンジをしていき、強くて魅力溢れる日本代表を作り、次なるチャンスで戦える準備をしていきたいと思っています。

最後になりましたが、国内レベルが躍進することで魅力あるビーチハンドボールという競技を多くの人に知ってもらい、応援していただけるよう活動を続けていきます。皆さまのご協力とご声援、今後ともよろしくお願い致します。

AHF Referees' Course (Suzhou-CHN)

古川英樹・村田哲郎 ペア

古川 英樹(フルカワ ヒデキ) 1991年10月8日生まれ(27歳) 岐阜県出身		村田 哲郎(ムラタ テツロウ) 1994年8月14日生まれ(24歳) 福井県出身	
大垣市立西部中学校ハンドボール部	平成19年卒	木田ブルーロケッツ2000(現 北陸電力Jr.)	
岐阜市立岐阜商業高等学校ハンドボール部	平成22年卒	福井市立光陽中学校ハンドボール部	平成22年卒
岐阜聖徳学園大学ハンドボール部	平成26年卒	私立北陸高等学校ハンドボール部	平成25年卒
		日本大学ハンドボール部	平成29年卒
D級取得	平成21年	D級取得	平成23年
C級取得	平成23年	C級取得	平成24年
B級取得	平成24年	B級取得	平成26年
A級取得	平成26年	A級取得	平成29年
※(公財)日本ハンドボール協会		※(公財)日本ハンドボール協会	
レフェリーコース	参加	レフェリーコース	参加
レフェリーアカデミー	卒	レフェリーアカデミー	卒

1. コース コンチネンタル レフェリーコース 中国 - 蘇州 (2018年10月16日～10月27日)

2. 講師 Saleh (AHF)

3. 受講生

U Z B (男: 双子)	Ismoilov Khasan(19)	Ismoilov Khusan(19)
K O R (男)	Hyonjin Pak(27)	Wonjeong Kim(26)
T H A (男)	Teerapat Suansiri(25)	Kasidit Noochan(23)
(女: 双子)	Jedsadaporn Jullawong(20)	Jedsadaporn Jullawong(20)
T P E (男)	Show Tsao(27)	Han Lin(27)
C H N (男)	Wu Hao(27)	Wang Yuyang(25)
(男)	Kang Xi(22)	Li Jiawei(22)
(女)	Xang Yi(24)	Gu Yao(24)
J P N (男)	Furukawa Hideki(27)	Murata Tetsuro(24)

4. スケジュール

15日	中国到着	
16日	9時～開講式	13時～講義
17日	7時～シャトルラン	10時～講義
18日	9時～講義	13時～大会吹笛
19日	9時～講義	13時～大会吹笛
20日	9時～講義	13時～大会吹笛
21日	9時～講義	13時～大会吹笛
22日	9時～ルールテスト	13時～大会吹笛
23日	9時～ルールテスト + オープンブック	13時～自由時間
24日	9時～オープンブックテスト	13時～大会吹笛
25日	9時～大会吹笛	
26日	休み	
27日	9時～大会吹笛	11時～閉講式

5. 大会

2018年全国男子ハンドボール選手権

※地域対抗・成年男子・予選リーグの後決勝トーナメント

全31試合を受講生9ペアですべて担当。

6. 詳細

・開講式

AHF 審判長 Seleh より、「9ペアもの次世代が集まり嬉しい、また女子2ペアについても非常に嬉しい。しかし、2か月前に中東で開催した同コースでは4ペア中1ペアしか合格することはできなかった。審判は試合の判定だけでなく、ルール知識・フィジカル・審判技術の3拍子すべてそろっていなければならない。今回のコースではそれらすべてを共に高め合えるようスケジュールを組んでいる為、必ず最終テストをパスしてほしい。また、コミュニケーション（英語力）はアジア地区の課題でもある為、コース中はどんな時も英語を話すよう、臆することなく挑戦してほしい。」との話があった。

・シャトルラン

日本と比べ「ペース、レベルアップのタイミング」は同じ、ただスタートと折り返しの音しか鳴らない。カウント方法はレベルのみのカウントで、合格基準は以下の通り。

レベル	折り返し回数	累積折り返し回数
1	7	7
2	8	15
3	8	23
4	9	32
5	9	41
6	10	51
7	10	61
8	11	72
9	11	83
10	11	94
11	12	106
12	12	118
13	13	131

男子合格ライン
レベル 9.5(77回)
女子合格ライン
レベル 8.5(66回)

・身体測定

身長及び体重を測定。BMIを算出し、常に24を超えないようにとの指導があった。

・講義

Player entering with wrong number (間違った番号のプレーヤー)

選手が間違った番号・色のユニフォームを着用しコート

に入った際（例えば上着を着ている、ユニフォームが破れた場合など）速やかにタイムアウトを取り、交代地域へ戻らせなければならない。この際、一切の罰則や攻守の交代を行う必要はない。

Passive play count of passes (パッシブプレーの予告合図中のパス回数)

パッシブプレーの予告合図を出した後、6回のパスまで許容することが出来る。しかし、攻撃に参加しない後方のGKにパスを戻した場合などには直ちにパッシブプレーの判定をしなければならない。これは、シュートをブロックされたボールが自チームのGKへ戻った場合も同様。

Assisting injured players (負傷したプレーヤーの介護)

コート内で治療行為が必要であると判断した負傷者について、「負傷者1人につき、2名の選手又は役員」を入場させることが出来る。つまり同一チームで2人の負傷者が出た場合には計4名まで入場の許可を与えることが出来る。

Not respecting the distance(3mの距離を確保しない)

各種スローの実施の際に決められた距離を確保しないことは、罰則を適用しなければならないが、競技時間終了30秒間に直接ゴールを狙うスローについては、すべてレッドカード+7mスローとなる。

・ルール小テスト(12～16問)

一週間実施。ペアで一つの回答を完成させるが、1問ずつ時間制限があり、常に試合の感覚で行うように指示があった(素早く、二人で一つの、正しい回答を選択する)。終了後は全問題の復習を全員で行い、ルールブックを確認しながらディスカッションを行った。

・ルールテスト

ペアで一つの回答を完成させる。時間制限無し、全25問。複数回答の問題はすべて選ぶことが出来なくても部分点を加算、しかし一つでも間違いを選択すればその設問は0点となる。

・オープンブックテスト

ルールテスト同様の出題方式。回答をチェックした後、ルールブックの中のどの条文かを加筆する。ルールブックは英語版・日本語版・その他すべて使用可。時間無制限。

・ゲーム評価(全体を通して)

1試合目(競技1日目、2日目)のみVTRによる全試合の振り返りが行われた。

全ペアが3～4試合を担当。毎朝の講義終了時にノミネートが発表された。各ペアの試合間隔はほぼ同間隔であり、我々日本は初日から2日おきに割り当てがあり、最終日は

「7位8決定・中国女子ペア、5位6位決定・中国No.2ペア、3位4位決定・韓国ペア、決勝・日本ペア」であった。

・各罰則を適用するときには、不必要な笛を吹かない。フリースロー or 7m の笛によりレフェリーに注目が集まっている中、更に笛を吹く必要は無く、プレイヤーの正面に回り込むことが重要である。

・チームタイムアウト終了後にプレイヤーを数えるジェスチャー（指さし）を行わない。人を指さしてはならない文化と、レフェリーがカウントしたという責任を負わない為に（再開時の人数過多など）

・チームタイムアウト 50秒で公示時計のブザー、チームが反応しなければ笛を吹く、更にもう一度笛を吹いてもコートに速やかに戻らなければ、チーム責任者に段階的罰則を適用する。（60秒後には必ず競技を再開する。）

・過度なリアクションいわゆるハリウッドアクションに対して注意を行うのであれば、会場全体に伝わるように、時間をかけてでも注意しなければならない。

・負傷が疑われるプレイヤーへの確認でも、体に触らない（ボディタッチは侮辱しているようにとられることがある）

・ルールブックに記載されていないジェスチャーを行う必要がある場合には、全世界共通のボディランゲージを用いるべき（6m エリア内でのDF、ロングホールディング、引き倒す）また、その為に他国の選手・審判員のゲームを数多く観察しなければならない。

・速攻に巻き込まれそうなときは立ち止まって選手を先に行かせるべき

・結果

今回の受講生 9 ペアすべてが合格、アジアコンチネンタルレフェリーとなった。

7. まとめ

今回、アジアコンチネンタルレフェリーコースに参加させていただき、多くのことを学ぶことが出来ました。それは細かなルール理解のみならず、審判員として常にトレー

ニングをすべき「ルール知識・フィジカル・審判技術」の重要性です。

ルール知識について、我々審判員は常にルールブックを持ち歩くべきとの話がありました。これは審判員として活動している時のみならず、普段の生活の際にも常に持ち歩き、例えば今日は4条について読み返す、翌日は8条について、という様に一字一句覚えることが先ずスタートであるとの話がありました。

審判技術について、今はビデオによる振り返りが容易にできる環境である為、ペアや仲間同士で様々な意見を出し合うことが重要であるとの話でした。また、世界各国の映像についても簡単に見ることが出来る為、自国のみならず、各国の選手・役員・レフェリーの動き（ジェスチャーや言動）を学ぶことが、国際レフェリーとして重要であるとのことでした。

フィジカルについて、トレーニングを行っているかどうかは数値を見ればすぐに分かる。今後はレポートを提出するようになる為、常にフィジカルトレーニングを欠かさないことと、レポートの数値だけで、トレーニングを欠かしていないレフェリーであると評価されなければならないとのことでした。

各国を代表して今回のコースに臨み、コンチネンタルの資格を取得した我々は、今まで以上に回りから見られるようになり、そのプレッシャーは大きなものになるだろうとの話がありました。また、各国の協会の代表であることを忘れず、帰国した後はすべての関係者への感謝の気持ちを忘れず、自国の活動に取り組まなければなりません。

資格を取得したからと言って、急に技術が向上したわけでは決してありません。しかし、今後様々な経験を積むことが出来るチャンスを得ることは出来ました。この環境に感謝の気持ちを忘れず、また決して驕ることなく、更なる技術力・人間力の向上に精進して参りたいと思います。

8. 最後に

今回のレフェリーコースを受講するにあたり、初めに連絡をいただいたのは 2018 年の 6 月でした。我々は昨年度

多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。
私たちはこれからも、素材の力で新たな価値創造に貢献していきます。

DAIDO STEEL GROUP
Beyond the Special



外からは見えませんが、骨のある会社です。

 **大同特殊鋼**

2017年度末までJHA主催のレフェリーアカデミーに参加させていただいており、国際レフェリーを目指すためのトレーニングを重ねてきました。特に案内をいただいた6月以降は語学力と英語のルールについての学習に注力しました。

コース期間中について、今回AHFからのスタッフはSalehのみであった為、多くの場面で中国協会の方にもお世話になりました。特に大会でTD・タイムキーパー・スコアラーを担当する方々は全員審判員としての資格を有しており、スムーズなゲーム運営をサポートくださったほか、レフェリングに関しても、中国の国際審判員の方から多くの意見を聞くことが出来ました。

今回の受講生は20歳代前半が多く、コースのスケジュール以外でも多くの時間を共にすることができました。受講生同士でも語学力（英語）に多少の差はあるものの、皆

翻訳機能などに頼ることなく、英語の会話にチャレンジし、日々成長できていたように感じました。

最後になりましたが、今回の受講に当たりAHFや中国協会との連絡、日本から中国の移動手段の手配、そして受講費用面においても多大なるサポートをしてくださいました（公財）日本ハンドボール協会に御礼を申し上げるとともに、日本全国のレフェリーの皆様、特にこれまで全国大会などで直接ご指導賜った先生方にも篤く御礼申し上げます。AHF審判長のコメントにもありましたが、「国の代表として資格を取らせてもらった、バッジをつける以上は国を代表していることを忘れてはならない。」ことを常に心に刻み込み、更にステップアップすることが出来るよう、更に多くの経験を積めるよう、先ずはいつでもノミネートに応えられる環境作りから、真面目に取り組んで参りたいと思います。



OSAKI



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。



限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)

現在の日本ハンドボールでの スポーツ・アナリティックについて

普及指導本部 指導委員会 指導映像専門委員会
強化本部 強化委員会 情報科学専門委員会
東京理科大学 市村 志朗

はじめに

スポーツ・アナリティックは、2003年に出版された「マネーボール」の発表から大きな進歩を遂げてきました。現在では、多くのスポーツにてスポーツ・アナリティックが採用され、チームを強力に構築するためには欠かせないものになってきております。そのスポーツ・アナリティックの中でも中心的な役割を担っているのが、スポーツ・アナリストであります。このスポーツ・アナリストとは、チームやコーチおよび選手の目標達成を導くために、情報戦略面で高い専門性を発揮し、チームやコーチおよび選手に高度な情報提供を行い、彼らやチームの意思決定のサポートを業務としたチームスタッフのことであります。そして、現在のスポーツ界においては、その重要性が非常に高いものになってきております。スポーツ・アナリストの必要な知識・能力として、その分析対象スポーツの専門的知識を有していることはもちろんですが、ICT 機器への造詣や統計学の知識を有することによって得られる「情報収集能力」と「情報分析能力」を有していることが重要であります。そして、チームが成功するためには、それら能力以上に、コーチや選手が必要としている情報が何なのか、または分析して得られた情報をコーチや選手に理解してもらえるように伝えることができる「コミュニケーション能力」や、アナリスト自身がコーチと選手に受け入れてもらえるための「信頼関係」が特に重要になります。そこで、本稿では私が今まで経験してきたハンドボールでのスポーツ・アナリティックおよび日本代表男子ジュニアチーム、アンダー24チーム、シニアチームといったカテゴリーでのスポーツ・アナリストとしての活動についてご紹介いたします。

ハンドボールでのアナリティック

スポーツでの情報アナリティックにあたり、そのデータの種類の、量的なデータと質的なデータの2種類が存在しております。そして、これらデータを分析するにあたっての方法は、過去に何が起きたかを説明する「説明的分析」、何が起きそうかを未来予測する「予測的分析」、適切な行動を明らかにする「指示的分析」の3種類の分析方法に分類することができます。

「説明的分析」は、分析対象が行ったことに対して、「いつ」「誰が」「どこで」「何を」行ったのかということと、その行為に対する結果を集計し統計的手法を用いて過去に何が起きているのかを明らかにするものであります。この「説明的分析」によって、現在までの対戦相手チームや自チームの過去の攻撃および守備がどのようになっていたのかを明らかにすることができ、その分析を基にして、それぞれのチームの強みや弱みなどの特徴を明らかにすることが可能となります。例えば、試合時の各チームの攻撃回数とシュート回数および得点を集計することで1回あたりの攻撃で得点する割合 (attack efficiency) を、守備においても同様な集計を行う事で1回の守備で失点する割合 (defense efficiency) を算出した簡単なアナリティック方法を紹介します。図1には、この手法で算出した2014年1月のアジア選手権から2018年9月のアジア大会までの主要国チームの attack efficiency と defense efficiency の縦断的なデータを示しました。このような攻撃回数やシュート回数および得点などといった簡単に収集す

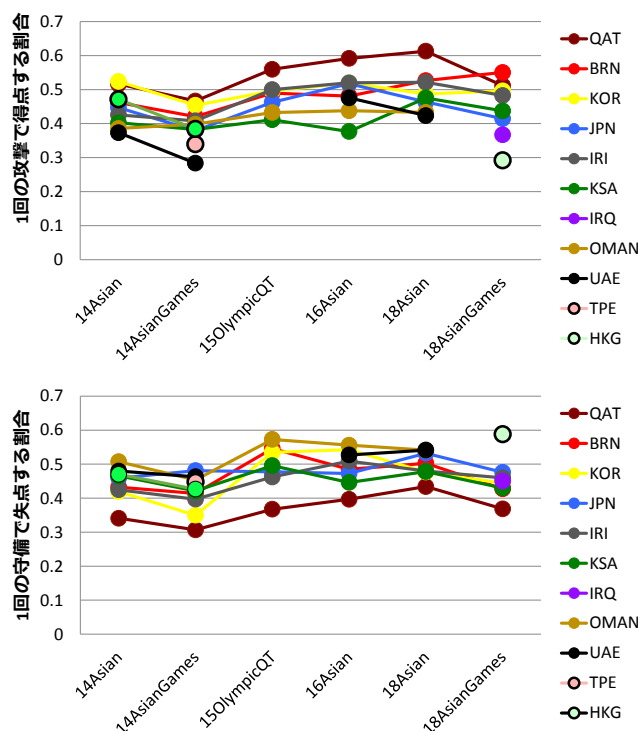


図1 1回の攻撃で得点する割合 (Attack efficiency) と失点する割合 (Defense efficiency)

ることが可能な量的データにより、それぞれのチームの攻撃力や守備力がどのような変化をしているかを考察することができるようになります。さらに、この情報にポジションや選手などの情報や攻撃時の動きなどの質的なデータを加えることによって、さらにより詳細な事柄を明らかにすることが出来るようになります。このように、「説明的分析」はアナリティックの最も基本的なことであり、常に対戦相手チームや自チームのデータを集積することでデータから過去や現時点の対戦相手チームや自チームの状態を把握することができるようになります。

しかしながら、コーチや選手およびチームが最も欲しいものは、過去に起きたことではなく、将来に何がおきるか、このままの行動で良いのかどうかを知ることであります。このためには、過去のデータから法則性を導き出し、それを使ってまだ見ぬデータを推測することです。この「過去のデータから法則性を導き出す」ことを統計では「モデル化」と言い、回帰分析などがそれにあたり、これら手法を用いることにより「予測的分析」を行うことが出来るようになります。図2には、図1にて示した attack efficiency を用いて、二項分布にて攻撃回数 60 回としたときのそれぞれのチームの得点分布を示しています。このように対戦前に得点分布を示すことで、勝利のために必要な得点数や失点数を予想することが可能となります。さらに、図3には、図1で示したデータを ROC 解析すること

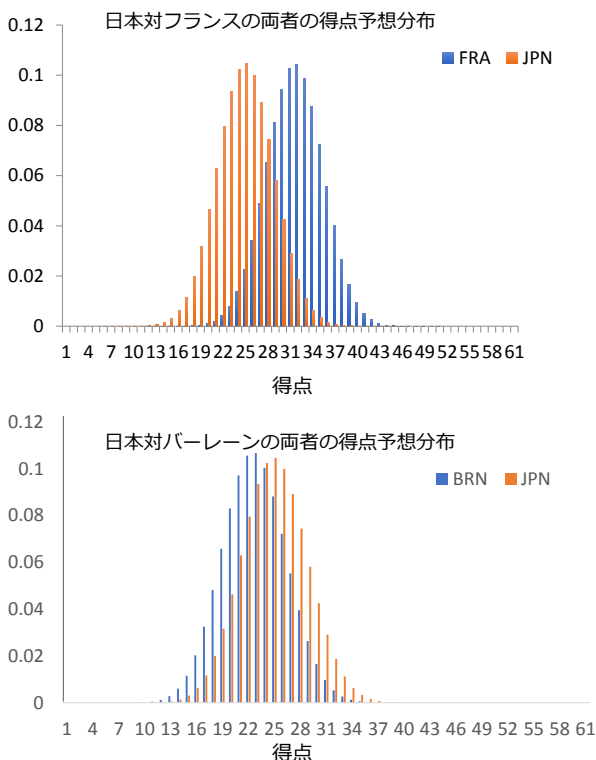


図2 2017年男子世界選手権予選終了時のデータを用いた二項分布による日本対フランス(上)と日本対バーレーンが対戦すると仮定したときの得点予想
本図では、攻撃回数が60回として計算された結果を示している。

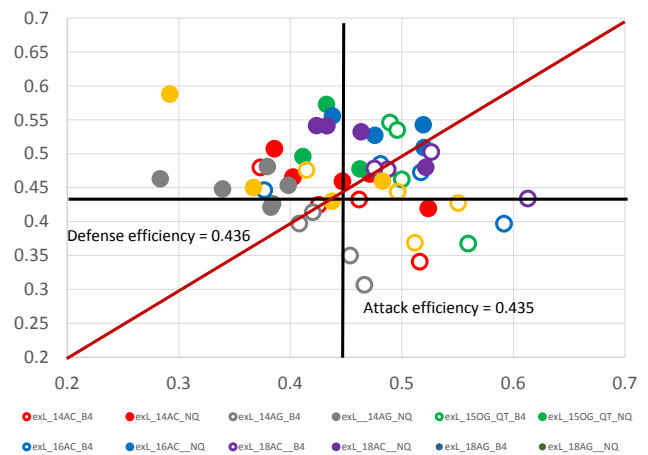


図3 過去6大会のデータを用いたアジアレベルの大会にてベスト4の結果を残すために必要な attack efficiency と defense efficiency
塗りつぶしは5位以下チームを、中抜きは4位以上チームを示す

で、アジアでベスト4の結果を残すために必要な attack efficiency と defense efficiency のモデルを算出しております。つまり、アジアでの大会にて、ベスト4以上の結果を得るためには、attack efficiency が0.435以上の攻撃力を、defense efficiency が0.436以下の守備力を有することが重要であることが示されます。このようにして、過去のデータを用いてさらに分析することで、将来に何が起きそうかを予測し、得られた未来予測モデルから普段のトレーニングにて将来必要とされる技術スキルや戦術スキルを明らかにすることが可能となります。

最後に、「指示的分析」ですが、スポーツ・アナリティックの究極的な目的は、よりよい意思決定に繋げることであります。近年、NBAやJ-リーグでは、選手やボールの移動量や加速度をリアルタイムに計測しております。特にNBAでは全試合でリアルタイムでのボールと選手の移動データ取得がなされており、2014年の研究論文 (<http://www.sloansportsconference.com/content/pointwise-predicting-points-and-valuing-decisions-in-real-time-with-nba-optical-tracking-data/>) では、リアルタイムに選手のプレイ判断について評価がなされるシステムが開発されています。このシステムでは、すべての選手とボールの今までのプレイ時の座標データと結果すべてをデータとして蓄積されており、今の状況で行おうとしているプレイに対して、過去のデータに基づいてどの判断が最も得点率が高いのかということを示すというものであります。残念ながら我々ハンドボールの世界では本場のヨーロッパですらまだこのような分析の実用にまでは至っておりません。このように「説明的分析」や「予測的分析」によって、コーチや選手およびチームの特徴や現在地の確認を、「予測的分析」によって、将来なりたい自分たちへの指標を確認することが可能となります。また、ハンドボールにおいて

も、ビックデータや機械学習などを用いた「指示的分析」の実用が近い日に行われ始めるであろうと思われます。

ハンドボールにおけるスポーツ・アナリストとしての活動

スポーツ・アナリストとしてチームに帯同する時の分析作業は、準備期と試合期の2つの期間によって異なります。準備期には、コーチング支援を中心に作業を行い、試合期にはコーチング支援に対戦相手チームのスカウティングが加わります。

準備期のコーチング支援では、量的分析と質的分析を用いて、継続的にデータを取得し、「トレーニング時のプレイの量的・質的な評価（できればの評価）」を縦断的に行うことで、チームがどのように変化しているのかを明らかにすることを目指します。また「選手達に対してコーチが求めるハンドボールのプレイスタイルや戦術的なプレイの理解ための支援」も同時に行います。

ハンドボールでのトレーニング時のプレイの量的・質的評価（できればの評価）では、「Attack」、「Retreat」、「Defense」、「Fast Break」のそれぞれの局面において、コーチが求めているプレイ時の速度・強度・位置・正確性などのプレイの質とその行動時の結果の量的評価を行います。この量的・質的評価では、コーチが示した質的評価基準に基づいた分析と分析者の視点から分析を行うことで、個々の選手に対する技術のみならず、コーチやチームが求める2～3人のグループ戦術、チーム全体の戦術の「できれば」を明らかにします。この量的・質的分析を毎トレーニング事に行い、コーチにフィードバックすることで、コーチの次なるトレーニングプラン作成に役立ち、個人およびチームの進捗状況の確認や選手の戦術理解に繋がっているのだと考えています。

この量的・質的な評価と同時に、選手達がコーチのハンドボール哲学やコーチが求める戦術やプレイスタイルといったコーチが求めるチームのあるべき姿をより深く理解のために、トレーニング前に行われるミーティング時にコーチが使用するプレイセッション資料やトレーニング時のコーチングおよび選手のプレイ映像を短くまとめた映像を作成します。そして、これら映像を元にして、さらに、戦術的なプレイの理解のために、ミーティング時の映像やプレイの約束事やそれぞれの戦術プレイを映像化した映像プレイブックなどを作成し、携帯端末等でいつでもどこでも視聴できるような環境を構築することで、選手達に対してコーチが求めるハンドボールのスタイルや戦術的な理解のための支援を行っていきます（図4）。

試合期には、前述したコーチング支援に加えて、対戦相手チームのスカウティングが加わります。スカウティング

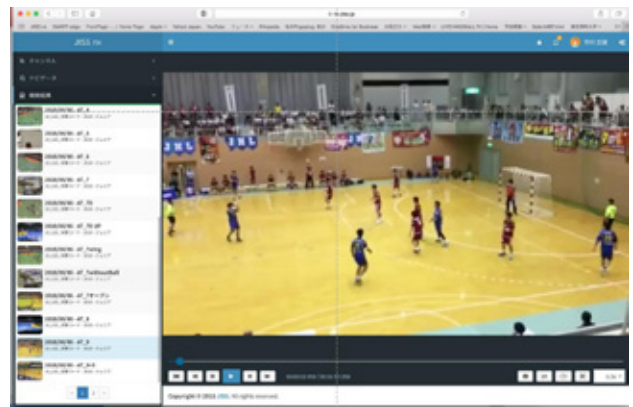


図4 映像を用いたプレイブックのデータベースの一例

で最も重要なことは対戦相手の試合映像を入手することです。従ってこの映像収集は試合直前のみならず約1年前から対戦相手になるであろうと思われるチームの映像の収集を始めます。対戦相手の試合映像は、動画配信サイト、世界中テレビ局サイトや友人などから入手することになります。大会期間中には自身のビデオカメラで映像撮影をするもしくは、大会主催者からの映像提供によって映像を入手しています。スカウティングの主な作業としては、これら収集した試合映像を用いて対戦相手チームを量的・質的に分析を行います。量的分析では、対戦相手のゲーム時のシュート種類やシュート位置および得点などから対戦相手チームの攻撃や守備行動様相を明らかにします（図5）。このような量的分析によって、対戦相手チームが重視している攻撃戦術や守備戦術について考察することが可能となります。さらにより詳細な分析として、質的分析を行います。

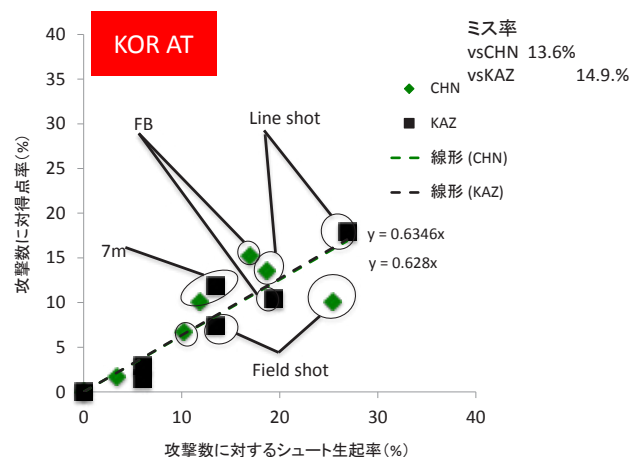


図5 量的分析による対戦相手チームの攻撃の評価

X軸は、攻撃回数に対するシュートの生起率を、y軸は攻撃回数に対する得点率を示している。この図では、韓国チームの対中国戦（◆）とカザフスタン戦（■）での攻撃様相を示している。それぞれのプロットは、Line Shot、Filed Shot、FastBreak、7m shot、Breakthrough Shot、Wing Shotを示している。韓国チームは攻撃の20%は、Line Shotで終了しており、非常に効果的な攻撃行動を行っていたと考えられる。さらに、FastBreakの生起率も一般的な値と比較して高値であった。さらに韓国チームがミスにて攻撃が終了した割合は攻撃数にして、対中国戦では13.6%、カザフスタン戦では、14.9%と一般的な値と比較して低値であった。このことから、韓国チームは、速攻による攻撃およびコートの中心部分かつゴールに近い位置でのシュートにて攻撃終了することを重視していることが考えられる。

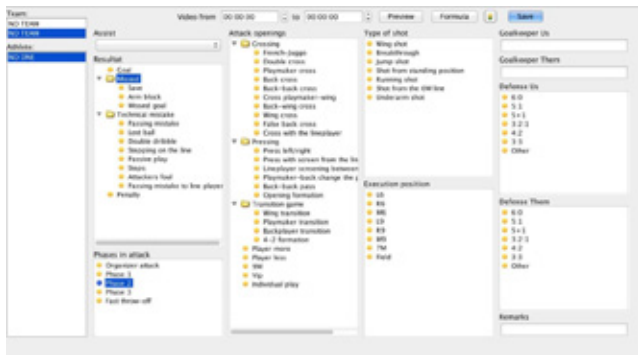


図6 記述分析するためのコードの一例

より詳細な分析をするために、シュートの位置や種類およびその結果などその場面に該当する映像を編集するためコードの一例を示した。スカウティングでは、「どのような」といった質的な攻撃戦術を分類し、その際の結果を同時に記録することで、対戦相手チームがどのような攻撃戦術を行うのか、もしくは、どのような攻撃に対して、どのような守備戦術を行うのかと行った評価が可能となる。

これは記述分析を映像と結びつけて分析を行えるソフトウェアなど（図6）を使用して、対戦相手が「どのような」攻撃戦術や「どのような」守備戦術を有しており、「どのように」攻撃行動や守備行動を行っているのかをといった特徴を量的なデータと共に映像を用いて明らかにしていきます。このように分析したデータを資料としてまとめ、コーチに報告し、コーチともに対戦相手チームの攻撃・守備についてディスカッションをし、コーチが意思決定することの支援を行います。

また、試合時には、コートサイドライン（ベンチ）にiPadを持ち込み、コート外で量的分析を行っているアナリストから量的データを配信し、コーチの意思決定判断の支援も行っております。国内での試合ではiPadのような電子デバイスをサイドライン（ベンチ）に持ち込むことは禁止されておりますが、私の経験した世界選手権やアジア選手権では、iPadのような電子デバイスの持ち込みとコート外とのデータ通信を行っております。もちろん、このようなデバイスのサイドライン（ベンチ）への持ち込みと外部とのデータ通信の可否については、大会開始直前に行われるテクニカルミーティングにて確認を行っております。

今年度の新たな試み

今年度のジュニア男子チームでは、今まで行っている支援に加えて、選手の戦術スキル向上を目的とした遅延映像リアルタイム配信、コーチが試合時の選手の疲労度を把握するための支援、練習や試合時に最新のスポーツ科学を取り入れるためのエビデンスの収集といった新たな活動を行いました。

従来までも戦術トレーニング時の映像は、練習終了1時間後には選手が映像を確認できるように支援を行っていたのですが、それに加えて、今チームでは主に国立スポ



図7 遅延映像再生装置を用いた戦術の即時フィードバック

ーツ科学センターの機材を用いて、戦術トレーニング時には、コート横で遅延映像を配信し、コーチがプレイ直後に映像を用いたコーチングをすることを可能としました（図7）。その後、この遅延映像システムをナショナルトレーニングセンター外でも行えるように特別な機器を使用せずにiPadなどのタブレット端末などの民生品とネットワークを使用した同様のシステムも開発することで、次は海外合宿などや試合時に遅延映像をコーチや選手に配信することが可能になると考えております。

今年度のジュニア男子コーチからは、通常のスポーツ・アナリストの業務である映像の取得やゲーム分析以外の要求が多くありました。その代表的な例の1つとして、「練習や試合中に選手がどのくらい疲労しているのかを簡便に把握する方法」を考えて欲しいというものがありません。その対応として、すべての練習において、選手には心拍数を測定する機器を装着していただき、コート横に置いた大画面モニターにて、それぞれの選手の心拍数をモニタリングしました（図8）。そして、コーチには、選手の心拍数を



図8 練習時の心拍数モニタリングの様子



図9 公式戦のハーフタイム時にアイスバスに浸かっている選手の様子

客観的な指標とし、選手の動きや表情といったものを主観的な指標として、その両方の指標を関連づけるようにして、すべての練習や紅白戦、練習試合時の選手達を観察して欲しいと依頼しました。そして、練習終了直後に選手達の心拍数データと練習時の選手達の動きや表情の関連性について議論をしておりました。

科学的手法の採用のためのエビデンスの収集では、コーチより大会時には、選手の疲労回復のためにアイスバスの利用を考えており、アイスバスの利用がどのくらい有効な

のかを科学的なエビデンスを調べて欲しいとの依頼がありました。いくつかの科学論文にてその有効性を確認することができたことから、公式戦のハーフタイムにて、選手へのアイスバスの利用を促し実施することができました(図9)。選手からの反応は非常に良く、後半にも足が止まらないなどの感想を聞くこともできました。

最後に

「はじめに」に前述しておりますが、スポーツ・アナリストにとって、様々なアナリティックを行うためには、十分なICTやその機器の操作について造詣があることや統計学の知識を有することによって得られる「情報収集能力」と「情報分析能力」を有していることは重要なことではありますが、それよりもっと重要なことは、コーチとの信頼関係であります。「今年度の行った新たな試み」にもありますようにコーチとのコミュニケーションが十分に上手くいっている状況ではスポーツ・アナリストは多くの情報だけでなく、新しい「気づき」もコーチに提供することが可能となります。このように、スポーツ・アナリストはコーチの支援をするばかりではなく、コーチに新たな「気づき」も与えることができる重要なチームスタッフになることができると思っております。



確かな“技術力”。
これまでも、これからも。

100

株式会社ミカサは、2017年5月1日
おかげさまで創業100周年を迎えました。

<http://www.mikasasports.co.jp>



これまで支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。



2019女子ハンドボール 世界選手権大会の チケット販売中です！

昨年11月30日から熊本で開催されたアジア選手権では、おりひめジャパンは惜しくも準優勝でしたが、決勝戦は満員の観客が一体となって熱い声援を送りました。

さて、2019女子ハンドボール世界選手権大会まで1年を切り、現在チケットの先行抽選販売を行っています。

今なら貴重な決勝、準決勝のチケットなどを特典付きで購入できます。女子の世界選手権大会は日本初の開催です。是非、熊本で世界を体験しましょう！

先行抽選販売開始！

世界選手権料金(1日券)

ゲームカテゴリー	区分	カテゴリーS		カテゴリーA		カテゴリーB		車椅子席	
		前売	当日	前売	当日	前売	当日	前売	当日
決勝戦 2019年12月15日(日)	大人	¥8,000	¥10,000	¥5,000	¥7,000	¥3,000	¥4,000	¥3,000	¥4,000
	小中高	-	-	¥2,500	¥3,500	¥1,500	¥2,000	¥1,500	¥2,000
準決勝戦 2019年12月13日(金)	大人	¥6,000	¥8,000	¥4,000	¥5,000	¥2,500	¥3,500	¥2,500	¥3,500
	小中高	-	-	¥2,000	¥2,500	¥1,200	¥1,700	¥1,200	¥1,700

会場パッケージ料金(予選ラウンドのみ対象)

会場	開催日数(予選)	試合数(予選)	料金		
			S席	A席	車椅子席
パードーム熊本	5日間	15試合	¥14,000	¥10,000	¥10,000
アクアドームくまもと	5日間	15試合	¥7,000	¥5,000	¥5,000
県立総合体育館	5日間	10試合	¥7,000	¥5,000	¥5,000
山鹿市総合体育館	5日間	10試合	¥7,000	¥5,000	¥5,000
八代市総合体育館	5日間	10試合	¥7,000	¥5,000	¥5,000

チケット販売スケジュール

1: オフィシャルサイト先行抽選販売

- 時期: 2018年11月25日(日)~2019年1月17日(木)/2019年1月24日(木) 当落通知
- 券種: 1日券(準決勝・決勝)、各会場パッケージ ■特典: 大会オリジナルグッズ、チケットホルダー

チケットお申込み方法

オフィシャル
サイトに
アクセス!

希望チケットを
お申込み!

●同日開催試合は1試合
のみお申込み可能です。

当落メールが
到着!

コンビニエンスストアにて
お支払い!

●クレジットカードでお申し込みの方は、
当選確定後、自動的に引き落とし。

2019年秋、チケットが到着!

2: オフィシャルサイト先行先着販売

- 時期: 2019年2月3日(日)~6月26日(水)
- 券種: 1日券(準決勝・決勝・日本戦(予選))、各会場パッケージ、ホスピタリティチケット
- 特典: 大会オリジナルグッズ

3: プレイガイド先行先着販売

- 時期: 2019年5月1日(水)~6月26日(水)
- 券種: 1日券(準決勝・決勝・日本戦(予選))、各会場パッケージ、ホスピタリティチケット

4: 一般先着販売

- 時期: 2019年7月7日(日)~試合開催当日
- 券種: 1日券(予選、決勝ラウンド、順位決定戦、準決勝、決勝) 各会場パッケージ、ホスピタリティチケット

オフィシャルサイト <https://japanhandball2019.com/>



※チケット販売方法は随時変更になる場合がございます。最新の情報はオフィシャルサイトにてご確認ください。